



# **NetApp Workload Factory for VMware**

## **ドキュメント**

### **VMware workloads**

NetApp  
February 02, 2026

# 目次

NetApp Workload Factory for VMware ドキュメント	1
リリースノート	2
NetApp Workload Factory for VMware の新機能	2
2026年2月1日	2
2026年1月4日	2
2025年11月27日	2
2025年11月2日	3
2025年10月5日	3
2025年8月3日	4
2025年6月29日	4
2025年5月4日	4
2025年3月30日	5
2025年3月2日	5
2025年1月5日	6
2024年12月1日	6
2024年11月3日	6
2024年9月19日	6
2024年9月1日	7
2024年7月7日	7
はじめに	8
VMware向けNetAppワークロードファクトリーの詳細	8
NetApp Workload Factory for VMware とは何ですか?	8
VMware移行アドバイザーの仕組み	8
移住アドバイザーとできること	8
移行アドバイザーを利用するメリット	9
NetApp Workload Factory を使用するためのツール	9
EVS環境向けの適切に設計された分析	9
ライセンス	10
地域	10
VMware ワークロード移行アドバイザーを使用した Amazon EVS への移行のクイックスタート	10
VMware Workloads Migration Advisorを使用してAmazon EC2に移行するためのクイックスタート	11
VMware Workloads Migration Advisorを使用してVMware Cloud on AWSに移行するためのクイックスタートガイド	12
VMware プランニング センターをご覧ください	14
VMインベントリデータの管理	14
移行計画の管理	15
VMware プランニング センターを使用する	17
VMインベントリデータをNetApp Workload Factoryにアップロードする	17
Amazon Elastic VMware Service への移行	20

NetApp Workload Factory で Amazon Elastic VMware Service の割引価格をご確認ください	20
Amazon EVS のデプロイメントプランを手動で作成する	21
移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する	22
推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入	25
Amazon EC2への移行	27
VMware Workloads Migration Advisorを使用してAmazon EC2の導入計画を作成	27
推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入	29
VMware Cloud on AWSへの移行	30
VMware Workloads Migration Advisorを使用して、VMware Cloud on AWSの導入計画を作成	30
推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入	33
FSx for ONTAPファイルシステムをVMware Cloud on AWSに接続	35
NetApp Workload Factory for VMware を使用してデータを新しいインフラストラクチャに移行します	36
管理と監視	37
EVS構成の構成分析	37
Well-Architected ステータス	37
構成カテゴリ	37
適切に設計されたEVS構成を実装する	37
タスク概要	38
開始する前に	38
Well-Architected ステータス タブにアクセスする	39
Well-Architected の評価を表示	39
次の手順	41
知識とサポート	42
NetApp Workload Factory for VMware のサポートに登録する	42
サポート登録の概要	42
NetAppサポートのアカウントに登録する	42
NetApp Workload Factory for VMware のサポートを受ける	44
FSx for ONTAPのサポートを利用する	44
セルフサポートオプションを使用します	44
ネットアップサポートと一緒にケースを作成します	45
サポートケースの管理（プレビュー）	47
NetApp Workload Factory for VMware に関する法的通知	50
著作権	50
商標	50
特許	50
プライバシーポリシー	50
オープンソース	50

# NetApp Workload Factory for VMware ドキュメント

# リリースノート

## NetApp Workload Factory for VMware の新機能

Workload Factory の VMware 移行アドバイザー コンポーネントの新機能について説明します。

**2026年2月1日**

### Amazon Elastic VMware Service の Well-Architected 分析

Workload Factory は、Amazon Elastic VMware Service (EVS) 環境向けに、自動化された Well-Architected 分析機能を提供するようになりました。毎日のスキャンで設定の不整合を特定し、詳細な修復推奨事項を提供することで、最適な運用、セキュリティ、コスト効率の維持を支援します。

スキャンはAWS APIを使用して実行されます。vSphere認証情報やvCenter接続は必要ありません。結果は、EVS環境の詳細にある新しい\*Well-architectedステータス\*タブで確認できます。

このリリースには、次の分析情報が含まれています：

- インスタンスの停止/終了保護ステータス：EC2 の停止または終了保護が適用されていない EVS ノードを識別します。EC2 コンソールから EVS ノードを停止または終了すると、仮想マシンのデータが利用できなくなったり、データが失われたりする可能性があります。
- クラスターノードのパーティション配置アライメント：AWSアベイラビリティゾーン内のパーティションに障害が発生した場合に、重大な処理能力の低下やダウンタイムにつながる可能性のある、パーティション配置の不整合を検出します。各インサイトには、重大度レベル、影響を受けるリソース情報を含む詳細な検出結果、AWSベストプラクティスに基づく段階的な修復手順が含まれます。

"適切に設計された構成を実装する"

**2026年1月4日**

### Ask me AIアシスタントのホームページ統合

Workload Factory コンソールのホームページには Ask me AI アシスタントが組み込まれており、独自のストレージ資産について質問したり、環境から直接パーソナライズされた分析情報を取得したり、以前の会話を参照したりすることができます。コンソールを離れることなく、「Ask me」と対話してワークロードを理解し、問題をトラブルシューティングし、Workload Factory について詳しく知ることができます。

**2025年11月27日**

特定のリージョンにおける **Amazon Elastic VMware Service** への移行によるコスト削減を計算します

クラウド移行のためのさまざまな展開オプションの価値を調査し、ソリューション評価に投入された労力を最適化し、クラウドで価値と節約をもたらす可能性のあるソリューションを詳細に調査できるようになりました。

また、EVS 展開で FSx for ONTAPを使用することで実現できる vCPU コアの節約を確認することもできます。

**2025年11月2日**

**FSx for ONTAP**ファイルシステムのデプロイメントウィザードに **Amazon Elastic VMware Service** の設定を導入

Amazon Elastic VMware Service の外部 NFS データストアとして使用する FSx for ONTAPファイル システムをデプロイするときに、データストアが接続される EVS 環境を選択できるようになりました。これにより、デプロイメント ウィザードのいくつかのフィールドが自動的に入力され、デプロイメント プロセスが簡素化されます。

"推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入"

**VMware** ワークロードの権限の変更

VMware ワークロードでは、特定のアクションに必要な権限がより明確に示され、必要な権限のみを詳細に選択できます。資格情報を追加すると、以前の権限モデルである 読み取り専用 と 読み取り/書き込み の代わりに、2 つの権限オプションから選択できるようになります。新しい権限モデルでは、権限ポリシーが次のように分割されます。

- 表示、計画、および分析: EVS 仮想化環境のインベントリを表示し、システムの Well-Architected 分析を取得して、コスト削減を検討します。
- データストアのデプロイと接続: 推奨される VM レイアウトを Amazon EVS、Amazon EC2、または VMware Cloud on AWS vSphere クラスターにデプロイし、カスタマイズされたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用します。

資格情報を追加するときに、VMware ワークロードに提供するアクセス レベルに基づいて、これらの権限ポリシーを 1 つ以上選択できます。

"ワークロードファクトリーの権限リファレンス"

**Amazon EC2 Migration Advisor**の機能強化

NetApp Workload Factory for VMware のこのリリースでは、移行アドバイザーのエクスペリエンスがいくつか改善されています。

- 移行計画の保存またはダウンロード: 移行計画を PDF または CSV ファイルとして保存またはダウンロードできるようになりました。移行計画を保存すると、その計画は Workload Factory アカウントに保存されます。

**2025年10月5日**

**BlueXP workload factory**が**NetApp**ワークロードファクトリーに

BlueXP は、データ インフラストラクチャの管理における役割をより適切に反映するために、名前が変更され、再設計されました。その結果、BlueXP workload factoryの名前がNetAppワークロード ファクトリーに変更されました。

## VMware ワークロード プランニング センターのご紹介

VMware ワークロード プランニング センターを使用すると、VM インベントリと移行プランを 1 か所に表示および管理できます。異なる環境から複数の VM インベントリをアップロードして保存し、それらのいずれかについて AWS EC2 または Amazon Elastic VMware サービスへの移行の計画を開始できます。AWS EC2 または EVS 移行プランを作成して保存することもできます。

["VMware ワークロード プランニング センターの詳細"](#)

## Amazon Elastic VMWare Service の移行アドバイザーサポートの導入

BlueXP Workload Factory for VMware では、Amazon Elastic VMware Service 移行アドバイザーを使用して、オンプレミスの VMware ワークロードを Amazon Elastic VMware Service に迅速に移行できるようになりました。移行アドバイザーを使用して移行計画を作成すると、計画センターの移行計画のリストに自動的に保存されます。

["移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する"](#)

**2025年8月3日**

## Amazon Elastic VMWare Service の移行アドバイザーのサポートが強化されました

NetApp Workload Factory は、Amazon FSx for NetApp ONTAP ファイルシステムの自動デプロイメントとマウントをサポートするようになりました。これにより、Amazon EVS 環境への移行が完了したら、FSx for ONTAP ファイルシステムに VM のデプロイを開始できるようになります。

["移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する"](#)

## Amazon Elastic VMware Service への移行によるコスト削減額を計算する

VMware ワークロードを Amazon Elastic VMware Service (EVS) に移行することで得られる潜在的なコスト削減を検討できるようになりました。節約計算ツールを使用すると、基盤ストレージとして Amazon FSx for NetApp ONTAP を使用した場合と使用しない場合の Amazon EVS のコストを比較できます。計算機は、環境の特性を調整すると、潜在的な節約額をリアルタイムで表示します。

["BlueXP Workload Factory で Amazon Elastic VMware Service の割引価格をご確認ください"](#)

**2025年6月29日**

## Amazon Elastic VMWare Service の移行アドバイザーサポートの導入

BlueXP Workload Factory for VMware は、Amazon Elastic VMware Service をサポートするようになりました。オンプレミスの VMware ワークロードを Amazon Elastic VMware Service に手動で移行することで、コストを最適化し、アプリケーションのリファクタリングや再プラットフォーム化を行わずに VMware 環境をより細かく制御できるようになります。

["移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する"](#)

**2025年5月4日**

## Amazon EC2 Migration Advisorの機能強化

BlueXP Workload Factory for VMware のこのリリースでは、Amazon EC2 移行アドバイザーのエクスペリエンスが次のように改善されています。

- NetAppデータインフラのインサイトをデータソースとして\*：ワークロードファクトリは、EC2移行アドバイザーのデータコレクタを使用すると、NetAppデータインフラのインサイトに直接接続して、VMwareの導入情報を収集できるようになりました。

["移行アドバイザーを使用してAmazon EC2の導入計画を作成"](#)

権限に関する用語を更新

Workload Factory のユーザー インターフェイスとドキュメントでは、読み取り権限を示すために「読み取り専用」を使用し、自動化権限を示すために「読み取り/書き込み」を使用するようになりました。

**2025年3月30日**

## Amazon EC2 Migration Advisorの機能強化

BlueXP Workload Factory for VMware のこのリリースでは、Amazon EC2 移行アドバイザーのエクスペリエンスがいくつか改善されています。

- ボリューム割り当てガイダンスの強化：EC2 Migration Advisorの「Classify」および「Package」ステップのボリューム割り当て情報には、読みやすさと操作性が向上しています。各ボリュームについて、より有益な情報が表示されるため、ボリュームの特定や割り当て方法の決定に役立ちます。
- データコレクタスクリプトの効率化: EC2移行アドバイザーのデータコレクタスクリプトは、小規模なVM環境でデータを収集する際のCPU使用率を最適化します。

["移行アドバイザーを使用してAmazon EC2の導入計画を作成"](#)

**2025年3月2日**

## Amazon EC2 Migration Advisorの機能強化

BlueXP Workload Factory for VMware のこのリリースでは、Amazon EC2 移行アドバイザーのエクスペリエンスがいくつか改善されています。

- 推定インスタンスタイプ：Migration Advisorで環境の要件を確認し、VMごとに推定Amazon EC2インスタンスタイプを提供できるようになりました。移行アドバイザーの「スコープ」ステップで、各VMの推定インスタンスタイプを含めるように選択できます。
- \* Amazon EBSボリュームの推奨機能\*：移行アドバイザーは、特定のリージョンの容量やパフォーマンスのニーズに応じて、Amazon FSx for NetApp ONTAPではなくAmazon Elastic Block Store（EBS）にデータボリュームを移行することを推奨できるようになりました。
- ファイルシステムの自動割り当ての強化：Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムの割り当てが改善され、コストの最適化とスループットの最小化が実現しました。

["移行アドバイザーを使用してAmazon EC2の導入計画を作成"](#)

**2025年1月5日**

### **Amazon EC2 Migration Advisorの機能強化**

BlueXP Workload Factory for VMware のこのリリースでは、移行アドバイザーのエクスペリエンスがいくつか改善されています。

- 移行計画の保存またはダウンロード: 移行計画を保存またはダウンロードし、移行計画を読み込んで移行アドバイザーに入力できるようになりました。移行計画を保存すると、その計画は Workload Factory アカウントに保存されます。
- **VM 選択の改善:** BlueXP Workload Factory for VMware では、移行展開に含める VM のリストのフィルタリングと検索がサポートされるようになりました。

["移行アドバイザーを使用してAmazon EC2の導入計画を作成"](#)

**2024年12月1日**

### **Amazon EC2 Migration Advisorの機能強化**

NetApp Workload Factory for VMware のこのリリースでは、移行アドバイザーのエクスペリエンスがいくつか改善されています。

- データ収集: BlueXP Workload Factory for VMware は、移行アドバイザーを使用する際に特定の期間のデータを収集する機能をサポートしています。
- **VM の選択:** BlueXP Workload Factory for VMware では、移行展開に含める VM の選択がサポートされるようになりました。
- クイックエクスペリエンスと高度なエクスペリエンス: Migration Advisorを使用すると、RVtoolsを使用したクイックマイグレーションエクスペリエンスまたはMigration Advisorデータコレクタを使用した高度なエクスペリエンスを選択できるようになりました。

["移行アドバイザーを使用してAmazon EC2の導入計画を作成"](#)

**2024年11月3日**

### **VMware Migration Advisorによるデータ削減比率の向上**

このリリースのWorkload Factory for VMwareには、データ削減比率アシスタントが搭載されています。データ削減比率アシスタントは、AWSクラウドのオンボーディングを準備する際に、VMwareのインベントリとストレージ資産に最適な比率を判断するのに役立ちます。

["移行アドバイザーを使用してAmazon EC2の導入計画を作成"](#)

**2024年9月19日**

### **VMware Migration Advisorの機能拡張**

このリリースの Workload Factory for VMware では、機能性と安定性が強化されているほか、VMware 移行アドバイザーを使用する際に移行プランをインポートおよびエクスポートする機能も備わっています。

["移行アドバイザーを使用してAmazon EC2の導入計画を作成"](#)

**2024年9月1日**

**Amazon EC2への移行**

VMwareのワークロードファクトリでは、VMware Migration Advisorを使用したAmazon EC2への移行がサポートされるようになりました。

**2024年7月7日**

**VMware向けWorkload Factoryの初期リリース**

初期リリースには、VMware Migration Advisorを使用してオンプレミスのvSphere環境で現在の仮想マシン構成を分析し、推奨されるVMレイアウトをVMware Cloud on AWSに導入し、カスタマイズしたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用するための計画を生成する機能が含まれています。

# はじめに

## VMware向けNetAppワークロードファクトリーの詳細

NetApp Workload Factory for VMware は、オンプレミス システムから Amazon Elastic VMware Service (EVS)、VMware Cloud on AWS (VMC)、または Amazon EC2 にデータを移動するためのツールを提供します。

### NetApp Workload Factory for VMware とは何ですか？

NetApp Workload Factory for VMware は、オンプレミスの vSphere 環境における現在の仮想マシン構成を分析できる計画センターと移行アドバイザーを提供します。次に、移行アドバイザーは、推奨される VM レイアウトを Amazon EVS、Amazon EC2、または VMware Cloud on AWS vSphere クラスターにデプロイし、カスタマイズされた Amazon FSx for NetApp ONTAP ファイルシステムを外部データストアとして使用する計画を生成しました。VMware のワークロード ファクトリー ダッシュボードとして機能する計画センターでは、保存された VM インベントリ データセットや保存された移行プランを管理し、保存した移行プランをプロビジョニングできます。

Amazon FSx for NetApp ONTAP は、NetApp の ONTAP ファイルシステム上に構築された外部 NFS データストアで、Amazon EVS または Amazon EC2 インスタンス、あるいは VMware Cloud on AWS vSphere クラスターに接続できます。利用可能なストレージを増やすためにホストを追加する必要はありません。代わりに、FSx for ONTAP ボリュームを外部データストアとして使用して、vSAN データストアを補完します。これにより、コンピューティング リソースとは独立して拡張できる、柔軟で高性能な仮想化ストレージ インフラストラクチャが提供されます。

ワークロードファクトリーの詳細については、["ワークロードファクトリーの概要"](#)。

### VMware 移行アドバイザーの仕組み

移行アドバイザーは、VMware がサポートする任意のデータストアで実行されているオンプレミスの仮想マシン (VM) とそのデータを、FSx for ONTAP ファイル システム上の補足 NFS データストアを含む Amazon EVS、Amazon EC2、または VMware Cloud データストアに移行するのに役立ちます。

VMware Cloud on AWS 上の単一の vSphere クラスターに最大 4 個の FSx for ONTAP ボリュームを接続できます。

### 移行アドバイザーとできること

移行アドバイザーは次の機能を提供します。

- 現在のオンプレミス VM 構成を分析
- Amazon EC2、Amazon EVS、または VMware Cloud on AWS に移行する VM を決定する
- FSx for ONTAP ボリュームに VM の外部データストアとして使用するために必要なスペースを特定する
- 作成されたレポートを確認して導入手順を理解する
- 実際の導入の実行

移行アドバイザーは、単一の FSx for ONTAP ファイルシステムに接続された単一の Amazon EVS または Amazon EC2 インスタンス、あるいは VMware Cloud on AWS クラスターの構成計画をサポートします。

## 移行アドバイザーを利用するメリット

Amazon FSx for ONTAPを外部NFSデータストアとして使用し、現在のインフラの一部をAmazon EC2またはVMware Cloud on AWSに移行することには、次のようなメリットがあります。

- ホストとストレージの分離と高度なデータ効率化によるコスト最適化
- ホストインスタンスを追加購入することなく、必要に応じてストレージ容量を拡張可能
- クラウドでのNetApp ONTAPデータ管理機能（スペース効率に優れたSnapshot、クローニング、圧縮、重複排除、コンパクションなど）
- ハードウェア更新管理の削減
- ボリュームのサイズの増減に加えて、データスループット、IOPS、ファイルシステムのサイズを変更可能
- 複数のアベイラビリティゾーン（AZ）環境をサポートする高可用性
- Transit Gatewayを使用せずにVPCピアリングを使用するシングルAZ構成によるコストとレイテンシの削減

## NetApp Workload Factory を使用するためのツール

NetApp Workload Factory は次のツールで使用できます。

- **Workload Factory** コンソール: Workload Factory コンソールは、アプリケーションとプロジェクトの視覚的かつ全体的なビューを提供します。
- \* NetAppコンソール\*: NetAppコンソールはハイブリッド インターフェイス エクスペリエンスを提供するため、Workload Factory を他のNetAppデータ サービスと一緒に使用できます。
- 質問する: Ask me AI アシスタントを使用すると、Workload Factory コンソールを離れることなく、質問したり、Workload Factory について詳しく知ることができます。Workload Factory のヘルプ メニューから「Ask me」にアクセスします。
- **CloudShell CLI**: Workload Factory には、単一のブラウザベースの CLI からアカウント全体のAWS およびNetApp環境を管理および操作するための CloudShell CLI が含まれています。Workload Factory コンソールの上部バーから CloudShell にアクセスします。
- **REST API**: Workload Factory REST API を使用して、FSx for ONTAPファイルシステムやその他のAWS リソースをデプロイおよび管理します。
- **CloudFormation**: AWS CloudFormation コードを使用して、Workload Factory コンソールで定義したアクションを実行し、AWS アカウントの CloudFormation スタックからAWS およびサードパーティのリソースをモデル化、プロビジョニング、管理します。
- **Terraform NetApp Workload Factory** プロバイダー: Terraform を使用して、Workload Factory コンソールで生成されたインフラストラクチャ ワークフローを構築および管理します。

## EVS環境向けの適切に設計された分析

Well-architected タブは、Amazon Elastic VMware Service (EVS) 環境を毎日自動分析し、AWS およびNetApp ベストプラクティスとの整合性を確保します。このタブでは、構成上の問題を特定し、最適な運用、セキュリティ、コスト効率を維持するための詳細な修復ガイダンスを提供します。

自動スキャンはAWS APIを使用して実行されます。vSphereの認証情報は必要ありません。検出結果は設定領域ごとに整理され、各検出結果にはステータス、重大度レベル、影響を受けるリソースの詳細、および段階的

な修復手順が含まれます。

["Workload Factory で適切に設計された EVS 構成を実装する".](#)== コスト

Workload Factory for VMware の使用には料金はかかりません。

移行アドバイザーの推奨に基づいてデプロイする AWS リソースに対して料金を支払う必要があります。

## ライセンス

Workload Factory for VMware を使用するのに、NetAppからの特別なライセンスは必要ありません。

## 地域

Workload Factory は、FSx for ONTAPがサポートされているすべての商用リージョンでサポートされています。 ["サポートされている Amazon リージョンを表示します。"](#)

次の AWS リージョンはサポートされていません。

- 中国地域
- GovCloud (米国) リージョン
- シークレットクラウド
- トップシークレットクラウド

# VMware ワークロード移行アドバイザーを使用した Amazon EVS への移行のクイックスタート

VMware 移行アドバイザーを使用して、Amazon FSx for ONTAP を外部 NFS データストアとして使用し、現在のインフラストラクチャを Amazon EVS に移行しましょう。

始める前に、: <https://docs.netapp.com/us-en/workload-setup-admin/permissions-reference.html> [ NetApp Workload Factoryの権限 ^] を理解しておく必要があります。

1

ワークロードファクトリーにログイン

必要となるのは ["Workload Factoryでアカウントを設定する"](#) 次のいずれかを使用してログインします ["コンソールエクスペリエンス"](#)。

2

資格情報と権限を追加する

選択してください ["権限ポリシー"](#) お客様のニーズを満たすために。

権限を付与しない場合は、Workload Factory for Databases を使用して、部分的に完了したコード サンプルをコピーできます。

権限を付与する場合は、 ["アカウントに資格情報を手動で追加する"](#) これには、データベースや AI などのワークロード機能の選択や、必要な権限の IAM ポリシーの作成が含まれます。

"[クレデンシャルと権限を追加する方法](#)"です。

3

**VMインベントリデータをアップロードする**

計画センターを使用して、現在の VM 環境に関するインベントリの詳細をアップロードできます。データコレクター スクリプト、RVTools、またはNetApp Data Infrastructure Insightsを使用して、現在の VM 構成をキャプチャし、データを計画センターにアップロードします。

"[VMインベントリデータをアップロードする方法を学ぶ](#)"。

4

**VMware Migration Advisorを使用して導入計画を作成**

VMware 移行アドバイザーを起動し、Amazon FSx for ONTAP ファイルシステムを外部 NFS データストアとして使用して、Amazon Elastic VMWare Service インフラストラクチャ上に作成する VM 環境を手動で設定します。

"[VMware Migration Advisorを使用して導入計画を作成する方法](#)"。

5

**推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入**

Amazon EC2インフラ内のVMにデータストアを提供する新しいFSx for ONTAPファイルシステムを導入します。

"[新しいFSx for ONTAPファイルシステムの導入方法をご確認ください](#)"です。

6

**EVS 環境の Well-Architected Insights を確認する**

EVS 環境が検出されると、Workload Factory は毎日自動的に Well-Architected スキャンを実行し、構成の問題を特定して修復の推奨事項を提供します。

"[適切に設計された構成を実装する方法を学ぶ](#)".

## VMware Workloads Migration Advisorを使用してAmazon EC2に移行するためのクイックスタート

VMware移行アドバイザーを利用して、外部NFSデータストアとしてAmazon FSx for ONTAPを使用し、現在のインフラをAmazon EC2に移行しましょう。

始める前に、<https://docs.netapp.com/us-en/workload-setup-admin/permissions-reference.html> [ NetApp Workload Factoryの権限 ^] を理解しておく必要があります。

1

**ワークロードファクトリーにログイン**

必要となるのは "[Workload Factoryでアカウントを設定する](#)"次のいずれかを使用してログインします "[コンソールエクスペリエンス](#)"。

2

### 資格情報と権限を追加する

選択してください ["権限ポリシー"](#)お客様のニーズを満たすために。

権限を付与しない場合は、Workload Factory for Databases を使用して、部分的に完了したコード サンプルをコピーできます。

権限を付与する場合は、["アカウントに資格情報を手動で追加する"](#)これには、データベースや AI などのワークロード機能の選択や、必要な権限の IAM ポリシーの作成が含まれます。

["クレデンシャルと権限を追加する方法"](#)です。

3

### VMインベントリデータをアップロードする

計画センターを使用して、現在の VM 環境に関するインベントリの詳細をアップロードできます。データ コレクター スクリプト、RVTools、またはNetApp Data Infrastructure Insightsを使用して、現在の VM 構成をキャプチャし、データを計画センターにアップロードします。

["VMインベントリデータをアップロードする方法を学ぶ"](#)。

4

### VMware Migration Advisorを使用して導入計画を作成

VMware Migration Advisorを起動し、Amazon FSx for ONTAPファイルシステムを外部NFSデータストアとして使用して、Amazon EC2インフラに移行するVMを選択します。計画を保存する前に、いくつかの変更を行うことができます。

["VMware Migration Advisorを使用して導入計画を作成する方法"](#)です。

5

### 推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入

Amazon EC2インフラ内のVMにデータストアを提供する新しいFSx for ONTAPファイルシステムを導入します。

["新しいFSx for ONTAPファイルシステムの導入方法をご確認ください"](#)です。

## VMware Workloads Migration Advisorを使用してVMware Cloud on AWSに移行するためのクイックスタートガイド

VMware移行アドバイザを利用して、Amazon FSx for ONTAPを外部NFSデータストアとして使用し、現在のインフラをVMware Cloud on AWSに移行しましょう。

始める前に、[:https://docs.netapp.com/us-en/workload-setup-admin/permissions-reference.html](https://docs.netapp.com/us-en/workload-setup-admin/permissions-reference.html) [ NetApp Workload Factoryの権限 ^] を理解しておく必要があります。

1

### ワークロードファクトリーにログイン

必要となるのは ["Workload Factoryでアカウントを設定する"](#)次のいずれかを使用してログインします ["コンソ](#)

ールエクスペリエンス"。

2

#### 資格情報と権限を追加する

選択してください ["権限ポリシー"](#)お客様のニーズを満たすために。

権限を付与しない場合は、Workload Factory for Databases を使用して、部分的に完了したコード サンプルをコピーできます。

権限を付与する場合は、["アカウントに資格情報を手動で追加する"](#)これには、データベースや AI などのワークロード機能の選択や、必要な権限の IAM ポリシーの作成が含まれます。

["クレデンシャルと権限を追加する方法"](#)です。

3

#### VMインベントリデータをアップロードする

計画センターを使用して、現在の VM 環境に関するインベントリの詳細をアップロードできます。データ コレクター スクリプト、RVTools、またはNetApp Data Infrastructure Insightsを使用して、現在の VM 構成をキャプチャし、データを計画センターにアップロードします。

["VMインベントリデータをアップロードする方法を学ぶ"](#)。

4

#### VMware Migration Advisorを使用して導入計画を作成

VMware Migration Advisorを起動し、Amazon FSx for ONTAPファイルシステムを外部NFSデータストアとして使用して、新しいVMware Cloud on AWSインフラに移行するVMを選択します。計画を保存する前に、いくつかの変更を行うことができます。

["VMware Migration Advisorを使用して導入計画を作成する方法"](#)です。

5

#### 推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入

VMware Cloud on AWSインフラ内のVMにデータストアを提供する新しいFSx for ONTAPファイルシステムを導入します。

["新しいFSx for ONTAPファイルシステムの導入方法をご確認ください"](#)です。

6

#### FSx for ONTAPファイルシステムをVMware Cloud on AWSに接続

ご使用のSoftware-Defined Data Center (SDDC) には、VPCピアリング機能を使用して外部NFSストレージボリュームへのネットワーク接続を拡張し、FSx for ONTAPファイルシステムに接続するためのネットワークオプションが用意されています。

["FSx for ONTAPファイルシステムを接続する方法をご紹介します"](#)です。

7

#### 古いシステムから新しいFSx for ONTAPファイルシステムにデータを移行

VMware HCX (Hybrid Cloud Extension) などの外部ツールを使用して、古い仮想マシンストレージから、新

しい仮想マシンに接続されているFSx for NetApp ONTAPボリュームにデータを移動します。

["データ移行の詳細はこちら"](#)です。

## VMware プランニング センターをご覧ください

VMware プランニング センターを使用すると、新しい VM インベントリ データをアップロードして新しい移行プランを作成できるほか、NetApp Workload Factory ですでに保存した VM インベントリ データと移行プランを管理することもできます。

### VMインベントリデータの管理

計画センターを使用して、VM インベントリ データを作成および管理します。


#### VMインベントリデータをアップロードする

Workload Factory を使用して Amazon AWS 環境への移行オプションを検討する準備ができたなら、VM インベントリ データをアップロードできます。参照["VMインベントリデータをアップロードする"](#)手順についてはこちらをご覧ください。

#### データセットの名前を変更する

保存したデータセットの名前を変更できます。

##### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。


プランニングセンターが表示されます。

3. 名前を変更するデータセットの [アクション] メニュー (...) を選択し、[名前の変更] を選択します。
4. データセットの新しい名前を入力し、[保存] を選択します。

#### データセットを削除する

データセットが不要になったら、いつでも削除できます。

##### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。

プランニングセンターが表示されます。

3. 削除するデータセットの [アクション] メニュー (...) を選択し、[削除] を選択します。
4. 操作を確認するには、[削除] を選択します。


## 移行計画の管理

移行センターを使用して、移行計画を作成および管理します。

### 移行計画をプロビジョニングする

移行プランを選択してプロビジョニングすることで、VM を任意の Amazon AWS 環境に移行できます。


#### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。  
  
プランニングセンターが表示されます。
3. \*移行プラン\*を選択します。
4. プロビジョニングする移行プランの [アクション] メニュー (...) を選択し、[プロビジョニング] を選択します。
5. 移行計画に応じて、ファイル システムを展開するための手順を参照してください。
  - ["Amazon VMware Cloud プランのファイルシステムをデプロイする"](#)
  - ["Amazon EC2 プランのファイルシステムをデプロイする"](#)
  - ["Amazon Elastic VMware Service プランのファイルシステムをデプロイする"](#)

### 移行計画のコメントを編集する

移行計画のコメントの詳細を変更する必要がある場合は、計画センター内からコメントを編集します。


#### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。  
  
プランニングセンターが表示されます。
3. \*移行プラン\*を選択します。
4. 編集する移行計画の [アクション] メニュー (...) を選択し、[コメントの編集] を選択します。
5. コメントを入力して「保存」を選択します。

### 移行計画の PDF または CSV レポートを作成する

移行計画の詳細の PDF または CSV レポートを作成します。

#### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。


プランニングセンターが表示されます。

3. \*移行プラン\*を選択します。
4. PDF または CSV レポートを作成する移行計画の [アクション] メニュー (...) を選択し、計画のダウンロード (**PDF**) または **VM** レポートのダウンロード (**CSV**) を選択します。
5. レポートの名前を入力し、「保存」を選択します。

#### 移行計画を削除する

移行計画が不要になった場合は、いつでも削除できます。

#### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。  
  
プランニングセンターが表示されます。
3. \*移行プラン\*を選択します。
4. 削除する移行計画の [アクション] メニュー (...) を選択し、[削除] を選択します。
5. \*削除\*を選択して操作を確認します。


# VMware プランニング センターを使用する

## VMインベントリデータをNetApp Workload Factoryにアップロードする

移行計画を作成する前に、VM インベントリ データをアップロードする必要があります。

### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。

2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。

プランニングセンターが表示されます。計画センターから、VM インベントリ データをアップロードしたり、以前のインベントリ データのアップロードを確認したり、任意の VM インベントリ データセットを使用して移行を計画したりできます。

3. \*VM インベントリのアップロード\*を選択します。

4. 使用するデータ収集方法を選択します。

## RVToolsの使用（クイック評価）

RVToolsは、vCenterおよびESXサーバ（5.x～8.0）と通信してVMware仮想環境に関する情報を取得するWindowsアプリケーションです。VM、CPU、メモリ、ディスク、クラスタ、ESXホスト、データストアなど。この情報をxlsxファイルにエクスポートして、移行アドバイザーで使えます。

の中で ["RVToolsの詳細"](#)

### 手順

1. **RVTools** タイルを選択し、次へ を選択します。

[Prepare for AWS Cloud Onboarding]\*ページが表示されます。

2. 作成する VM インベントリ データセットの名前を入力します。
3. RVTools 4.4.2以降をダウンロードしてインストールします。 ["RVTools Webサイト"](#)
4. RVToolsを起動し、ターゲットのvCenter Serverにログインします。

これにより、指定したvCenter Serverに関する情報がキャプチャされます。

5. VMware情報をxlsxまたはxlsファイルにエクスポートします。

「コマンドラインパラメータ」の章を参照してください。 ["RVToolsのドキュメントはリソースセクションにあります"](#) 詳細については。

6. 選択 [↑](#) エクスポートした RVTools ファイルを選択します。
7. \*アップロード\*を選択します。
8. \*完了\*を選択します。

### データコレクターを使用する（詳細な計画）

NetApp Migration AdvisorのVMコレクタスクリプトは、RVToolsが収集するものと同様にVM構成情報をvCenterから収集しますが、現在のVMパフォーマンスデータをキャプチャして、実際の読み取り/書き込みIOPSとスループットの統計を提供します。スクリプトは、次の2つのモードのいずれかで使えます。

- 1時間ごとのデータ収集
- 日次データ収集

[コードボックス]ウィンドウからMigration Advisor VMコレクタスクリプトをコピーするには、Migration Advisorを起動する必要があります。

### 開始する前に

コレクタスクリプトを実行するシステムは、次の要件を満たしている必要があります。

- Microsoft PowerShell 7.0以降がインストールされている必要があります。PowerShellをインストールする必要がある場合は、[を参照してください "Microsoft PowerShellのドキュメント"](#)。
- VMware PowerCLIがインストールされている必要があります。PowerCLIをインストールする必要がある場合は、[を参照してください "VMware PowerCLIのドキュメント"](#)。
- SSL証明書のチェックを無効にする必要があります。



- PowerShellで、署名のないスクリプトの実行を許可する必要があります。

VMから長期統計（日次統計）を取得する場合は、vSphere管理コンソール（VMware管理環境）で統計レベル3以上をアクティブ化しておく必要があります。

#### 手順

1. \*データコレクター\*タイルを選択し、\*次へ\*を選択します。

ページの右側に[コードボックス]ウィンドウが表示されます。

2. [コードボックス]ウィンドウで、Migration Advisorデータコレクタスクリプト（「list-VMs.ps1」という名前）をターゲットシステムに保存するか、スクリプトをコピーして適切なシステムに貼り付けるかを選択し  ます .

3. 現在のVMの構成をキャプチャするには、次の手順を実行します。

- a. PowerShellとPowerCLIがインストールされているデータコレクタをダウンロードしたシステムにログインします。
- b. 次のコマンドを実行して、VMware vCenterサーバに接続します。

```
Connect-VIServer -server <server_IP>
```

<server\_IP>をVMwareサーバのIPアドレスまたはホスト名に置き換えます。

- c. ダウンロードしたデータコレクタスクリプトを実行し、VM統計のデータ収集オプションを「hourly」または「daily」に指定します。

```
./list-vm.ps1 -PerformanceStatisticsTimePeriod <LastHour |  
LastDay>
```

ここで、

- \* LastHour \*は、過去1時間のIOPSとスループットのデータを20秒間隔で収集します。
- \* LastDay \*は、過去24時間のIOPSとスループットのデータを5分間隔で収集します。

オプションを指定せずにデータコレクタスクリプトを実行することもできます。これにより、対話型メニューからデータ収集期間を選択できます。

+ スクリプトは、名前にタイムスタンプが付いた圧縮ファイルを現在の作業ディレクトリに出力します。 .zip ファイルには、すべての VM とそのプロパティのリストと、IOPS およびスループットデータが含まれています。

4. \*アップロード\*を選択します。

#### NetAppデータインフラの分析情報を活用（詳細な計画）

NetApp Data Infrastructure Insightsは、インフラ全体を可視化できるクラウドインフラ監視ツールです。移行アドバイザーがVMwareインフラに関する情報を収集できるように、移行アドバイザーとData Infrastructure Insightsの間で一時的なAPI通信を有効にする必要があります。

## "データインフラの分析情報の詳細"

### 手順

1. \* Data Infrastructure Insights\* タイルを選択し、次へ を選択します。

[Prepare for AWS Cloud Onboarding]\*ページが表示されます。

2. 作成する VM インベントリ データセットの名前を入力します。
3. Data Infrastructure Insightsのテナント エンドポイントを入力します。

Data Infrastructure Insightsへのアクセスに使用するURLを指定します。

4. Data Infrastructure Insights用のAPIアクセストークンをまだ生成していない場合は、ページの手順に従って作成します。それ以外の場合は、[APIアクセストークンの入力]テキストボックスにAPIアクセストークンを貼り付けます。
5. \*アップロード\*を選択します。

Workload Factory は、Data Infrastructure Insightsから情報を収集します。

### 次の手順

計画センターからアップロードされた VM インベントリ データを管理したり、展開計画を作成したりします。

- ["VMware ワークロード プランニング センターの詳細"](#)
- ["Amazon VMware Cloud の導入計画を作成する"](#)
- ["Amazon Elastic VMware Service のデプロイメント プランを作成する"](#)
- ["Amazon EC2 デプロイメントプランを作成する"](#)

## Amazon Elastic VMware Service への移行

**NetApp Workload Factory** で **Amazon Elastic VMware Service** の割引価格をご確認ください

VMware ワークロードを Amazon Elastic VMware Service (EVS) に移行することで得られる潜在的なコスト削減を検討します。この計算ツールを使用すると、ストレージとしてAmazon FSx for NetApp ONTAP を使用した場合と使用しない場合のAmazon EVS のコストを比較できます。

節約計算ツールによって、最もコスト効率の高いストレージがFSx for ONTAPであると判断された場合は、詳細な評価を作成して、使用前に確認できる移行計画を作成できます。その後、Codebox を使用してInfrastructure-as-Code テンプレートを生成できます。


### EVS 環境の節約を検討する

Amazon EVS 環境への計画的な移行で潜在的な節約を検討するには、次の手順に従ってください。



続行する前に、節約計算ツールの下部にある免責事項を確認し、価格見積りの計算方法について詳しく理解してください。

#### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。  
プランニングセンターが表示されます。
3. VMware メニューから、\*節約の検討\*を選択します。節約計算機が表示されます。  
環境設定 ペインでは、EVS の展開リージョンを選択し、それに応じて TCO と節約の予測を調整できます。
4. リージョン ドロップダウン リストから、節約額を計算する EVS 展開リージョンを選択します。
5. 必要に応じて次のスライダーを調整し、選択した値に対するリアルタイムの節約計算を確認します。キーボードを使用する場合は、矢印キーを使用して微調整を行うことができます。
  - 必要な物理CPU（数）
  - 必要な物理メモリ（GiB）
  - 必要なVMストレージ（TiB）
6. **EVS** 課金プラン で、現在利用しているプランを選択します。
7. 次のいずれかを実行します。
  - 移行アドバイザーを使用して ["展開計画を作成する"](#) Amazon EVS 環境の場合は、\*EVS 移行の計画\*を選択します。
  - TCO 計算機を閉じるには、[閉じる]を選択します。

### Amazon EVS のデプロイメントプランを手動で作成する

VMware プランニング センターにアクセスするには、NetApp Workload Factory にログインします。そこから、ニーズに合わせてカスタマイズされた Amazon EVS のデプロイメントプランまたは移行プランを手動で作成できます。


Amazon Elastic VMware Service で仮想マシンの要件を手動で指定し、カスタマイズされた Amazon FSx for NetApp ONTAP ファイルシステムを外部データストアとして使用できます。

#### 要件

- Workload Factory にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。アクセス権がない場合は、今すぐアカウントを作成してください。説明書をご覧ください ["ここをクリック"](#)。
- Amazon Elastic VMware Service サブスクリプションが必要です。

#### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。

2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。

プランニングセンターが表示されます。

3. \*EVS プランを手動で作成\*を選択します。  
4. VM 環境の要件を入力します。

次の VM 移行のパフォーマンス要件と推奨事項に留意してください。



- パフォーマンス上の理由から、VM インベントリには 10TiB 以上のストレージ容量が推奨されます。
- このデプロイメントに指定する必要な IOPS 数に応じて、Amazon Elastic VMware Service データストアには最小スループットが必要です。
- FSx for ONTAP ファイルシステムの構成に応じて、Amazon Elastic VMware Service 環境で最適なパフォーマンスを実現するために、最小限の数の外部データストアが必要になります。

5. 準備ができたなら、「計画の確認」を選択して移行計画を確認します。  
6. 計画をレビューします。各セクションを展開すると、プランの詳細が表示されます。

デフォルトでは、Workload Factory は移行計画を計画センターに保存します。ページの上部付近でこのオプションの選択を解除できます。

7. オプションで、ページの右上にある プランの管理 を選択し、レポートのダウンロード (.pdf) または VM ストレージ デプロイメントのダウンロード (.csv) を選択して、移行計画を PDF または CSV ファイルとしてエクスポートできます。  
8. 展開プランをプロビジョニングする準備ができたなら、[プロビジョニング] を選択します。

"VMwareワークロードの導入推奨されるFSx for ONTAPファイルシステム"です。

## 移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する


VMware プランニング センターから Amazon EVS 移行アドバイザーを起動して、ニーズに合わせてカスタマイズされた移行プランを作成できます。

仮想マシンを Amazon Elastic VMware Service に移行し、カスタマイズされたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用するデプロイメントプランを作成できます。移行アドバイザーのオプションは、VM インベントリ データを収集するために使用されるツールによって異なる場合があります。

### 要件

- Workload Factory にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要です。アクセス権がない場合は、今すぐアカウントを作成してください。説明書をご覧ください ["ここをクリック"](#)。
- Amazon Elastic VMware Service サブスクリプションが必要です。

## 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 ["コンソールエクスペリエンス"](#)。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。  
プランニングセンターが表示されます。
3. 展開計画の作成に使用する VM インベントリをリストから選択し、その行で 計画の開始 を選択します。
4. 表示されるドロップダウン メニューから **EVS** を選択します。  
\*AWS クラウドオンボーディングの準備\*ウィザードが表示されます。
5. 必要な情報を入力します。

## 特定

1. VM 構成のアップロード セクションで、移行計画の作成に使用しているデータセットに関する情報を確認します。 **VM** インベントリ サマリー セクションは、VM の数と合計ストレージ容量を反映してインベントリ ファイルから入力されます。
2. VM インベントリの考慮事項 セクションで、移行する VM のリストをフィルターするオプションを選択します。
  - a. リージョン：Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを導入するリージョンを選択します。最適なパフォーマンスとコスト効率を実現するには、通常、既存のAmazon EC2 SDDCが導入されているリージョンと同じリージョンを使用します。
  - b. このリージョンのVMの予測パフォーマンスレベルを選択します。最初は小さいIOPS設定から始めることを推奨します。ワークロードの移行または導入時にファイルシステムを作成したあとに、プロビジョニングされたSSDのIOPSを増やすことができます。
    - 標準から高パフォーマンス：平均I/O速度が20~5000 IOPSのVMの場合。
    - 非常に高いパフォーマンス：VMの平均I/O速度が5、000 IOPSを超える場合。
    - パフォーマンスが非常に低い：平均I/O速度が20 IOPS未満のVMの場合。
3. ターゲット容量と保護の考慮事項 セクションで、いくつかのストレージ オプションから選択します。
  - a. 考慮する**VM**ストレージ：オンボードされた各VM用に作成されたデータストアのサイズを、現在使用されているサイズ（推奨）またはプロビジョニングされたサイズのどちらに基づいて設定するかを選択します。  
  
外部データストアは、Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムボリュームを使用して実装されます。
  - b. 平均データ削減比率：3つの一般的なデータ削減比率から選択します。「1：1 -削減なし」、「1：1.25 - 20%削減」、または「1：1.5 - 33%削減」を選択します。  
  
どちらの比率を選択するかわからない場合は、\*[決定を手伝ってください]\*を選択します。Data reduction ratio assistant\_dialogが表示されます。VMインベントリとストレージ環境に該当する文を選択してください。アシスタントは適切なデータ削減率を推奨します。推奨比率を使用するには、\*適用\*を選択します。
  - c. ヘッドルームパーセンテージ：FSx for ONTAPファイルシステムの容量に追加される容量増加率を入

力します。

20%未満の容量を選択すると、保護および長期的なバックアップのためにボリュームSnapshotを作成することはできません。

- d. \* VMスナップショット保護\*：スナップショットでVMを保護する場合は、このオプションを有効にします。

4. 「\* 次へ \*」を選択します。

## 選択

1. \*仮想マシンの選択\*ページで、AWS 移行に含める VM をリストから選択します。各 VM の電源状態、および VM が存在するデータセンターとクラスターでリストをフィルタリングできます。

VM リストでは、列として表示する VM 情報の種類を選択できます。たとえば、「ピーク読み取り IOPS」を選択すると、各 VM のピーク読み取り IOPS を含む列が表示されます。

2. オプションで、コストまたは回復可能性を考慮して展開を最適化することもできます。

- コスト: Workload Factory は、リストから I/O 密度が低い VM を選択します。これにより、リソース要件が削減されます。
- 回復可能性: Workload Factory は、ローカルにすばやくコピーするのが最も簡単な VM をリストから選択します。これにより、中断が発生した場合でも迅速な回復が可能になります。

3. 「\* 次へ \*」を選択します。

## 設計

- **ClassReview** インスタンス ストレージの割り当て ページで、VM 情報、ボリューム分類ルール、ボリュームの割り当て、および展開の一部として移行されるボリュームのリストを確認し、次へ を選択します。

## 計画の見直し

1. [Review plan (計画の確認)] ページで、移行を計画しているすべてのVMの予測される月単位の削減量とコストの見積もりを確認します。

ページの上部には、FSx for ONTAPファイルシステムとEBSボリュームの月間削減量が試算されています。各セクションを展開すると、推奨されるファイルシステム構成、予想される削減量の内訳、前提条件、技術的な免責事項の詳細を確認できます。

デフォルトでは、移行計画は計画センターの計画リストに自動的に保存されます。

2. オプションで、ページの右上にある プランの管理 を選択し、レポートのダウンロード (.pdf) または VM ストレージ デプロイメントのダウンロード (.csv) を選択して、移行計画を PDF または CSV ファイルとしてエクスポートできます。
3. 計画を進める準備ができれば、[プロビジョニング] を選択して、推奨されるAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムのデプロイを開始します。

"VMwareワークロードの導入推奨されるFSx for ONTAPファイルシステム"です。

## 推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入

推奨される FSx for ONTAPファイルシステム (場合によっては複数のファイルシステム) が要件を正確に満たしていることを確認したら、Workload Factory を使用して AWS 環境にシステムをデプロイできます。

Workload Factory アカウントに追加したポリシーと権限に応じて、Workload Factory を使用して (読み取り/書き込みモードを使用して) FSx for ONTAPファイル システムを完全にデプロイできます。権限が少ない場合 (読み取り専用モード)、または権限がまったくない場合 (基本モード) は、Codebox の CloudFormation テンプレートを使用して、AWS に FSx for ONTAPファイルシステムを自分でデプロイする必要があります。

### 要件

- Amazon Elastic VMware Service サブスクリプションが必要です。
- AWS アカウントで FSx for ONTAP ファイルシステムを作成するには、必要な権限が必要です。

### 考慮事項

- [クイック作成]または[詳細作成]オプションを使用できます。高度な作成には、カスタマイズ可能ないくつかの追加のストレージパラメータが用意されています。 ["この2つのオプションの詳細を見る"](#)です。
- 「Amazon Elastic VMware Service の設定」セクションでは、外部データストアに接続するための EVS 仮想化環境を選択できます。これにより、デプロイメントのベスト プラクティス オプションがいくつかのフィールドに自動的に入力されます。必要に応じてこれらのオプションを変更できます。

### 手順

1. [Review plan]ページの下部にある[Deploy]\*を選択すると、[FSx for ONTAPファイルシステムの作成]ページが表示されます。

FSx for ONTAPファイルシステムを定義するフィールドのほとんどは、入力した情報に基づいて入力されますが、このページで入力する必要があるフィールドがいくつかあります。

2. 「ファイル システムの一般構成」セクションで、次の情報を入力します。
  - a. **AWS 認証情報:** FSx for ONTAPファイルシステムを直接作成するために必要な権限を Workload Factory に付与する認証情報を選択または追加します。Codebox から CloudFormation コードを選択し、AWS に FSx for ONTAPファイルシステムを自分でデプロイすることもできます。
  - b. ファイルシステム名: このFSx for ONTAPファイルシステムに使用する名前を入力します。
  - c. タグ: オプションで、この FSx for ONTAP ファイル システムを分類するためのタグを追加できます。
3. 「Amazon Elastic VMware Service 設定」セクションの「環境 ID」リストから、データストアが接続される EVS 環境を選択します。

これにより、次のフィールドが自動的に入力されます。

- **VPC**
- アベイラビリティゾーン
- サブネット
- **NFS** データストア アクセス セクションで、**EVS** ホスト管理のみ オプションを選択した場合、**EVS** ホ

スト管理 (CIDR) フィールドが自動的に入力されます。

- 。データストア マウント オプション セクションで、データストアを EVS クラスターにマウントすることを選択した場合、**EVS** クラスター **VMware vCenter** アドレス と **vSphere** 管理者認証情報シークレット **ARN** フィールドが自動的に入力されます。

4. [Network & security]セクションで、次の情報を入力します。

- a. リージョンと **VPC**: FSx for ONTAP ファイルシステムをデプロイするリージョンと VPC を選択します。
- b. セキュリティグループ (詳細作成のみ) : \*詳細作成\*オプションを使用する場合、FSx for ONTAP VPC のデフォルトのセキュリティグループを選択して、すべてのトラフィックが FSx for ONTAP ファイルシステムにアクセスできるようにします。新しいセキュリティグループを作成することも、既存のセキュリティグループを選択することもできます。

セキュリティ グループ構成を **EVS NFS** データストアに合わせて調整する オプションを有効にすると、Workload Factory は EVS NFS データストアの設定に従ってセキュリティ グループを構成します。

セキュリティグループにインバウンドルールを追加することで、他のAWSサービスからのFSx for ONTAPファイルシステムへのアクセスを制限できます。これにより、開いているサービスの数が減ります。最小ポートとプロトコルは次のとおりです。

プロトコル	ポート	目的
TCP、UDP	——	portmapper (NFS要求で使用するポートをネゴシエートするために使用)
TCP、UDP	635	nfs mountd (NFSマウントヨウキュウノジュシン)
TCP、UDP	2049	NFSネットワークトラフィック
TCP、UDP	4045	Network Lock Manager (NLM、lockd) -ロック要求を処理します。
TCP、UDP	4046	Network Status Monitor (NSM、statd) -ロック管理のためにサーバがリブートされたことをNFSクライアントに通知します。

- a. 可用性ゾーン: 可用性ゾーンとサブネットを選択します。

AZ間トラフィックの課金を回避するには、VMware SDDCが導入されている場所と同じアベイラビリティゾーンを選択する必要があります。

- b. 暗号化 (詳細作成のみ): 詳細作成 オプションを使用する場合、ドロップダウンから AWS 暗号化キー名を選択できます。
- c. **NFS** データストア アクセス (詳細作成のみ): 詳細作成 オプションを使用する場合、すべてのホストがデータストアにアクセスできるかどうか、または EVS 管理ホストのみがデータストアにアクセスできるかどうかを選択できます。

5. [File system details]セクションで、次の情報を入力します。

- a. **ONTAP** 資格情報: ONTAP ユーザー名のパスワードを入力します。
- b. \* Storage VMクレデンシャル\* (アドバンス作成のみ) : Storage VMのパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。このファイルシステムに固有のパスワードを指定することも、ONTAPクレデンシャルに入力したパスワードと同じパスワードを使用することもできます。

6. 「EVS クラスター接続」セクションで、次の情報を入力します。

- a. データストアのマウント オプション: オプションで、データストアを **EVS** クラスターにマウント オプションを有効にして、データストアを Amazon EVS クラスターに自動的に接続します。このオプションを選択すると、Workload Factory は、ONTAP のベスト プラクティスの推奨事項と一致するように VMware ESXi ホスト設定を構成します。ファイル システムをデプロイする前に、概要 セクションでプランの詳細を確認し、変更された設定を確認できます。
- b. **EVS** クラスター **vSphere** コンソールの詳細: Amazon EVS に接続する VMware vCenter サーバーの IP アドレスまたは FQDN を入力します。
- c. **vSphere** 管理者認証情報のシークレット **ARN**: vSphere 管理者認証情報のシークレット ARN を選択します。これらの資格情報は、データストアをマウントし、推奨される VMware 設定を構成するために使用されます。

このリージョンで Amazon EVS が利用できない場合、またはアカウントに利用可能なシークレット ARN のリストを取得する権限がない場合は、シークレット ARN 値を手動で入力できます。

7. [まとめ]セクションでは、VMware Migration Advisorがお客様の情報に基づいて設計したFSx for ONTAPファイルシステムとデータストアの構成を確認できます。
8. FSx for ONTAPファイルシステムを導入するには、[作成]\*を選択します。このプロセスには最大2時間かかることがあります。

オプションとして、Codebox ウィンドウで **CloudFormation** にリダイレクト を選択し、CloudFormation スタックを使用してファイルシステムと推奨される VM 構成を作成できます。

どちらの場合でも、CloudFormation で作成の進行状況を監視できます。

## 結果

FSx for ONTAPファイルシステムが導入されます。Codebox の AWS CloudFormation テンプレートを使用して、推奨される VM 構成を Amazon Elastic VMware Service 環境にデプロイできるようになりました。

# Amazon EC2への移行

## VMware Workloads Migration Advisorを使用してAmazon EC2の導入計画を作成

VMware 移行アドバイザーにアクセスするには、NetApp Workload Factory にログインします。ウィザードの手順に従って、ニーズに合わせてカスタマイズされた展開計画または移行計画を作成します。

Workload Factory にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要であることに注意してください。アクセス権がない場合は、今すぐアカウントを作成してください。説明書をご覧ください "[ここをクリック](#)"。

### オンプレミスのvSphere環境を基に導入計画を作成


オンプレミスのvSphere環境の現在の仮想マシン構成をAmazon EC2の仮想マシンに移行し、カスタマイズしたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用できます。

### 要件

- あなたには"**VMインベントリをアップロードしました**"。

### 手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。"コンソールエクスペリエンス"。

2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。

プランニングセンターが表示されます。

3. VMインベントリをまだアップロードしていない場合は、「VMインベントリをアップロード」を選択し、"VMインベントリデータをアップロードする"。

4. リストから VM インベントリ データセットを選択し、データセットの 計画の開始 メニューを開きます。

5. \*AWS ネイティブコンピューティング\*を選択します。

[Prepare for AWS Cloud Onboarding]\*ページが表示されます。

6. [VM configuration upload]セクションで、 RVToolsによって作成された.xlsxファイルを選択します。

「データ収集の詳細」セクションには、Onboarding Advisorデータコレクタを使用して収集されたデータの日付範囲と時間数が表示されます。

インベントリファイルの\*[VM inventory summary]\*セクションに、VMの数と合計ストレージ容量が入力されます。

7. [VMインベントリの考慮事項]セクションで、移行するVMのリストをフィルタリングするオプションを選択します。

a. リージョン：Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを導入するリージョンを選択します。最適なパフォーマンスとコスト効率を実現するには、通常、既存のAmazon EC2 SDDCが導入されているリージョンと同じリージョンを使用します。

b. このリージョンのVMの予測パフォーマンスレベルを選択します。最初は小さいIOPS設定から始めることを推奨します。ワークロードの移行または導入時にファイルシステムを作成したあとに、プロビジョニングされたSSDのIOPSを増やすことができます。

- 標準から高パフォーマンス：平均I/O速度が20~5000 IOPSのVMの場合。

- 非常に高いパフォーマンス：VMの平均I/O速度が5、000 IOPSを超える場合。

- パフォーマンスが非常に低い：平均I/O速度が20 IOPS未満のVMの場合。

8. [Target capacity and protection considerations\_]セクションで、ストレージオプションをいくつか選択します。

a. 考慮する**VM**ストレージ：オンボードされた各VM用に作成されたデータストアのサイズを、現在使用されているサイズ（推奨）またはプロビジョニングされたサイズのどちらに基づいて設定するかを選択します。

外部データストアは、Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムボリュームを使用して実装されます。

b. 平均データ削減比率：3つの一般的なデータ削減比率から選択します。「1：1 -削減なし」、「1：1.25 - 20%削減」、または「1：1.5 - 33%削減」を選択します。

どちらの比率を選択するかわからない場合は、\*[決定を手伝ってください]\*を選択します。Data reduction ratio assistant\_dialogが表示されます。VMインベントリとストレージ環境に該当する文を選択してください。アシスタントは適切なデータ削減率を推奨します。推奨比率を使用するには、\*適用\*を選択します。

- c. ヘッドルームパーセンテージ：FSx for ONTAPファイルシステムの容量に追加される容量増加率を入力します。

20%未満の容量を選択すると、保護および長期的なバックアップのためにボリュームSnapshotを作成することはできません。

- d. \* VMスナップショット保護\*：スナップショットでVMを保護する場合は、このオプションを有効にします。

9. 「\* 次へ \*」を選択します。

10. [Scope]\*ページで、AWS移行に含めるVMをリストから選択します。各VMの電源状態、およびVMが配置されているデータセンターとクラスタでリストをフィルタリングできます。

VMリストでは、列として表示するVM情報のタイプを選択できます。たとえば、[Estimated instance type]を選択すると、VMのリソース要件に基づいて、各VMの推定Amazon EC2インスタンスタイプを示す列が表示されます。

11. 「\* 次へ \*」を選択します。

12. [分類]ページで、VM情報、ボリューム分類ルール、ボリュームの割り当て、導入時にマイグレートするボリュームのリストを確認し、\*[次へ]\*を選択します。



特定のリージョンのAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムの容量を超える容量やパフォーマンスの要件がボリュームにある場合、移行アドバイスはそのボリュームをAmazon EBSファイルシステムに導入することを推奨します。

13. [パッケージ]ページで、EC2インスタンスと異なるFSx for ONTAPクラスタに割り当てられているボリュームを確認し、\*[次へ]\*を選択します。
14. [Review plan (計画の確認)]ページで、移行を計画しているすべてのVMの予測される月単位の削減量とコストの見積もりを確認します。

ページの上部には、FSx for ONTAPファイルシステムとEBSボリュームの月間削減量が試算されています。各セクションを展開すると、推奨されるファイルシステム構成、予想される削減量の内訳、前提条件、技術的な免責事項の詳細を確認できます。

デフォルトでは、移行計画は計画センターの計画リストに自動的に保存されます。

移行計画に満足したら、次のような選択肢があります。

- プランのダウンロード > レポートのダウンロード を選択して、展開プランを .pdf 形式でダウンロードし、レビュー用に配布できるようにします。
- プランのダウンロード > インスタンス ストレージ デプロイメントのダウンロード を選択して、外部データストア デプロイメント プランを .csv 形式でダウンロードし、新しいクラウドベースのインテリジェント データ インフラストラクチャの作成に使用できるようにします。
- 推奨されるAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムのデプロイを開始するには、[プロビジョニング] を選択します。

## 推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入

推奨される FSx for ONTAPファイルシステム (場合によっては複数のファイルシステム) が要件を正確に満たしていることを確認したら、Workload Factory を使用して AWS 環

境にシステムをデプロイできます。

以下の指示に従ってください"[NetApp Workload Factory で FSx for ONTAPファイルシステムを作成する](#)"  
"Workload Factory が推奨する構成に従って FSx for ONTAPファイルシステムを展開します。手順の\*高度な作成\*手順を使用して、ファイル システムを完全にカスタマイズできます。

## VMware Cloud on AWSへの移行

**VMware Workloads Migration Advisor**を使用して、**VMware Cloud on AWS**の導入計画を作成

VMware 移行アドバイザーにアクセスするには、NetApp Workload Factory にログインします。ウィザードの手順に従って、ニーズに合わせてカスタマイズされた展開計画または移行計画を作成します。

VMware Cloud に移行する場合、移行アドバイザーを使用して、現在のオンプレミスの vSphere 環境を VMWare クラウドに移行できます。

Workload Factory にアクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要であることに注意してください。アクセス権がない場合は、今すぐアカウントを作成してください。説明書をご覧ください "[ここをクリック](#)"。


オンプレミスの**vSphere**環境を基に導入計画を作成

オンプレミスのvSphere環境で現在の仮想マシン構成をVMware Cloud on AWSの仮想マシンに移行し、カスタマイズしたAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを外部データストアとして使用できます。


要件

- Migration AdvisorのVMコレクタ（.csvファイル）またはRVTools（.xlsxファイル）を使用して、既存のシステムからインベントリファイルを作成しておく必要があります。
- Workload Factory にログインしているシステムからインベントリ ファイルにアクセスできる必要があります。

手順

1. 次のいずれかを使用してWorkload Factoryにログインします。 "[コンソールエクスペリエンス](#)"。
2. メニューを選択  次に\*VMware\*を選択します。  
  
プランニングセンターが表示されます。
3. \*VMC の計画と作成\*を選択します。
4. 現在の VM 構成を Workload Factory に取り込むために使用するインベントリ ファイルの種類を選択し、[次へ]を選択します。
  - VMwareデータコレクタを使用して作成した.csvファイルを使用する場合は、\* Migration Advisor VMwareデータコレクタを使用する\*を選択します。
  - RVToolsを使用して作成した.xlsxファイルを使用するには、\*[Use RVTools]\*を選択します。

[Prepare for VMware Cloud onboarding]ページが表示されます。

5. [Upload VM configuration]セクションで、使用するファイルを選択し  ます。

- Migration Advisor VMコレクタを使用する場合は、.csvファイルを選択します。
- RVToolsを使用する場合は、.xlsxファイルを選択します。

インベントリファイルから[VMs]の概要セクションに、VMの数と合計ストレージ容量が入力されます。

6. [VMインベントリの考慮事項]セクションで、移行するVMのリストをフィルタリングするオプションを選択します。

- a. 仮想マシンを考慮：動作電力の状態に基づいて.csvファイルから抽出される仮想マシンを指定します。すべてのVMを取り込むことも、オン、オフ、または一時停止中のVMのみを取り込むこともできます。
- b. 考慮する**VM**ストレージ：オンボードされた各VM用に作成されたデータストアのサイズを、現在使用されているサイズ（推奨）またはプロビジョニングされたサイズのどちらに基づいて設定するかを選択します。

外部データストアは、Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムボリュームを使用して実装されます。

- c. 考慮する**VM**メモリ：オンボードVMごとに割り当てられたメモリのサイズを、現在使用されているサイズ（推奨）またはプロビジョニングされたサイズに基づいて設定するかを選択します。

7. [VMware Cloud on AWS deployment configuration]セクションで、必要なVMware Cloud on AWSの設定に関する詳細を入力します。

- a. リージョン：VMとAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムが導入されるリージョンを選択します。

パフォーマンスとコスト効率を最適化するには、通常は既存のVMware Cloud on AWS SDDCが導入されているリージョンと同じリージョンを使用します。

- b. \* VMの推定パフォーマンス要件\*：このオプションは、RVToolsを使用している場合にのみ使用できます。Migration Advisor VMコレクタは、環境からこの情報を取得します。導入する新しいVMに適用する仮想マシンごとの平均パフォーマンスパラメータを指定します。

- \*仮想マシンあたりの平均IOPS\*：ファイルシステムに必要なIOPSの数を入力します。不明な場合は、Amazon FSx for ONTAPファイルシステムでSSDストレージのGiBあたり3 IOPSのデフォルトの設定を使用できます。たとえば、2,000GiBの容量を導入した場合、これは6,000IOPSに変換されます。最初は小さいIOPS設定から始めることを推奨します。ワークロードの移行または導入時にファイルシステムを作成したあとに、プロビジョニングされたSSDのIOPSを増やすことができます。
- 平均**I/O**ブロックサイズ：読み取りまたは書き込み処理を含む各ブロックのサイズ。デフォルトのサイズは4KBです。ブロックサイズを大きくした方が、ラージシーケンシャルリード/ライトワークロードに適している場合があります。スパースファイルまたは大容量ファイルへの小規模なランダム書き込みを実行するワークロードでは、ブロックサイズを小さくするとパフォーマンスが向上します。
- 平均書き込み比率：ワークロードの書き込み処理の割合。デフォルトの比率は、書き込みが30%、読み取りが70%です。

8. [VM storage capacity considerations]セクションで、ストレージオプションをいくつか選択します。

- a. 平均データ削減比率：3つの一般的なデータ削減選択値から選択します。「1：1 -削減なし」、「1：1.25 - 20%削減」、または「1：1.5 - 33%削減」を選択します。

- b. ヘッドルームパーセンテージ：FSx for ONTAPファイルシステムの容量に追加される容量増加率を入力します。

20%未満の値を選択すると、保護および長期的なバックアップのためにボリュームSnapshotを作成できなくなります。

9. [次へ]\*を選択すると、[VMware cloud on AWS node configuration]ページが表示されます。

このページでは、予想される削減量の分析と推奨されるノードタイプを使用して、VMware Cloud on AWSクラスタの構成を定義できます。次の項目を設定できます。

- a. \* VSANアーキテクチャ\*：VSAN Express Storage Architecture (ESA) とVSAN Original Storage Architecture (OSA) のどちらのアーキテクチャを使用するかを選択します。
- b. \* VSAN Fault Tolerance \*：VMに必要なフォールトトレランスのレベルを選択します。推奨される「自動」を選択するか、さまざまなRAIDレベルから選択できます。
- RAID-1 (FTT 1)：2つ以上のディスク上にある一連のデータの完全なコピー（ミラー）で構成されます。
  - RAID-5 (FTT 1)：ブロックレベルのストライピングと分散パリティ情報で構成され、3つ以上のドライブに分散されます。1つのディスクで障害が発生しても運用を継続できます。
  - RAID-5 (FTT 2)：ブロックレベルのストライピングと分散パリティ情報で構成され、4つ以上のドライブに分散されます。2つのディスクで同時に障害が発生しても、データは保護されます。
  - RAID-6 (FTT 2)：RAID 5を拡張して別のパリティブロックを追加します。したがって、2つのパリティブロックがすべてのメンバーディスクに分散されたブロックレベルのストライピングを使用します。4本以上のドライブが必要で、同時に2本のディスクで障害が発生しても運用を継続できます。
- c. ノード構成選択リスト：ノードのEC2インスタンスタイプを選択します。

10. [次へ]\*を選択すると、[仮想マシンの選択]ページに前のページで指定した条件に一致するVMが表示されません。

- a. [Selection criteria]セクションで、導入するVMの条件を選択します。
- コストとパフォーマンスの最適化に基づく
  - リカバリシナリオのためにローカルSnapshotを使用してデータを簡単にリストアできる機能に基づく
  - 両方の基準に基づいています。低コストでありながら、優れたリカバリオプションを提供します。
- b. [Virtual Machines]セクションで、前のページで指定した条件に一致するVMが選択されます（オン）。このページでオンボード/移行するVMの数を減らす場合は、VMを選択または選択解除します。

変更を加えると、\*推奨される展開\*セクションが更新されます。見出し行のチェックボックスをオンにすると、このページのすべてのVMを選択できます。

- c. 「\* 次へ \*」を選択します。

11. [データストア導入計画]ページで、移行に推奨されたVMとデータストアの総数を確認します。

- a. ページの上部に表示された各データストアを選択して、データストアとVMのプロビジョニング方法を確認します。

ページの下部には、この新しいVMとデータストアをプロビジョニングするソースVM（または複数

のVM)が表示されます。

b. データストアの導入方法を確認したら、\*[次へ]\*を選択します。

12. [Review deployment plan (導入計画の確認)]ページで、移行するすべてのVMの予測月次コストを確認します。

ページの上部には、導入されたすべてのVMとFSx for ONTAPファイルシステムの月額コストが表示されます。各セクションを展開すると、「推奨されるAmazon FSx for ONTAPファイルシステム構成」、「推定コスト内訳」、「ボリューム構成」、「サイジングの前提条件」、技術的な「免責事項」の詳細を確認できます。

13. 移行計画に満足したら、次のような選択肢があります。

- VMをサポートするためにFSx for ONTAPファイルシステムを導入するには、\* Deploy \*を選択します。["FSx for ONTAPファイルシステムの導入方法をご確認ください"](#)です。
- [Download plan]>[VM deployment]\*を選択して、.csv形式で移行計画をダウンロードし、クラウドベースの新しいインテリジェントデータインフラを作成します。
- [計画のダウンロード]>[計画レポート]\*を選択して、レビュー用に計画を配布できるように、移行計画を.pdf形式でダウンロードします。
- 移行計画を.json形式のテンプレートとして保存するには、\*[計画のエクスポート]\*を選択します。後で計画をインポートして、同様の要件のシステムを導入する際にテンプレートとして使用できます。

## 推奨されるFSx for ONTAPファイルシステムを導入

推奨される FSx for ONTAPファイルシステム (場合によっては複数のファイルシステム) が要件を正確に満たしていることを確認したら、Workload Factory を使用して AWS 環境にシステムをデプロイできます。

Workload Factory アカウントに追加したポリシーと権限に応じて、Workload Factory を使用して (読み取り/書き込みモードを使用して) FSx for ONTAPファイル システムを完全にデプロイできます。権限が少ない場合 (読み取り専用モード)、または権限がまったくない場合 (基本モード) は、Codebox の CloudFormation 情報を使用して、AWS に FSx for ONTAPファイルシステムを自分でデプロイする必要があります。

### VMware Cloud on AWSへの導入の要件

- FSx for ONTAPファイルシステムを導入するには、VMware Cloud on AWS Software-Defined Data Center (SDDC) バージョン1.20以降を使用している必要があります。
- FSx for ONTAPファイルシステムは、SDDCの導入時に使用したVPCに導入しないでください。VMware Cloud on AWSとAmazon FSx for NetApp ONTAPを統合するには、所有する新しいAmazon VPCに導入する必要があります。
- FSx for ONTAPファイルシステムは、SDDCと同じAWSリージョン内に導入する必要があります。

### 手順

1. [Review plan]ページの下部にある[Deploy]\*を選択すると、[FSx for ONTAPファイルシステムの作成]ページが表示されます。

FSx for ONTAPファイルシステムを定義するフィールドのほとんどは、入力した情報に基づいて入力されますが、このページで入力する必要があるフィールドがいくつかあります。

[クイック作成]または[詳細作成]オプションを使用できます。高度な作成には、カスタマイズ可能ないくつ

かの追加のストレージパラメータが用意されています。 ["この2つのオプションの詳細を見る"](#)です。

2. **AWS 認証情報:** FSx for ONTAPファイルシステムを直接作成するために必要な権限を Workload Factory に付与する認証情報を選択または追加します。 Codebox から CloudFormation コードを選択し、AWS に FSx for ONTAPファイルシステムを自分でデプロイすることもできます。
3. **ファイルシステム名:** このFSx for ONTAPファイルシステムに使用する名前を入力します。
4. **タグ:** オプションでタグを追加して、このFSx for ONTAPファイルシステムを分類できます。
5. **[Network & security]**セクションで、次の情報を入力します。

- a. **\*リージョンとVPC\***：FSx for ONTAPファイルシステムを導入するリージョンとVPCを選択します。

VMware Cloud on AWSに導入する場合は、VMware Cloud on AWSが導入されているVPCとは別のVPCに導入してください。

- b. **セキュリティグループ**：\*詳細作成\*オプションを使用する場合、すべてのトラフィックがFSx for ONTAPファイルシステムにアクセスできるように、FSx for ONTAP VPCのデフォルトのセキュリティグループを選択できます。

他のAWSサービスがFSx for ONTAPファイルシステムにアクセスできるように制限するインバウンドルールを追加できます。これにより、開いているサービスの量がブロックされます。最小ポートとプロトコルは次のとおりです。

プロトコル	ポート	目的
TCP、UDP	———	portmapper (NFS要求で使用されるポートをネゴシエートするために使用)
TCP、UDP	635	nfs mountd (NFSマウントヨウキュウノジュシン)
TCP、UDP	2049	NFSネットワークトラフィック
TCP、UDP	4045	Network Lock Manager (NLM、lockd) -ロック要求を処理します。
TCP、UDP	4046	Network Status Monitor (NSM、statd) -ロック管理のためにサーバがリブートされたことをNFSクライアントに通知します。

- a. **アベイラビリティゾーン**：アベイラビリティゾーンとサブネットを選択します。

AZ間トラフィックの課金を回避するには、VMware SDDCが導入されている場所と同じアベイラビリティゾーンを選択する必要があります。

- b. **暗号化**：\*高度な作成\*オプションを使用する場合は、ドロップダウンからAWS暗号化キー名を選択できます。
- c. **データストアアクセス制御**：\*[詳細作成]\*オプションを使用して、すべてのホストがデータストアにアクセスできるかどうか、または特定のサブネット上の特定のvSphereクラスタノードのみがデータストアにアクセスできるかどうかを選択できます。

6. **[File system details]**セクションで、次の情報を入力します。

- a. **\* ONTAPクレデンシャル\***：ONTAPパスワードを入力して確認します。
- b. **\* Storage VMクレデンシャル\***（アドバンス作成のみ）：Storage VMのパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。このファイルシステムに固有のパスワードを指定することも、ONTAPクレデンシャルに入力したパスワードと同じパスワードを使用することもできます。

7. [まとめ]セクションでは、VMware Migration Advisorがお客様の情報に基づいて設計したFSx for ONTAPファイルシステムとデータストアの構成を確認できます。
8. FSx for ONTAPファイルシステムを導入するには、[作成]\*を選択します。このプロセスには最大2時間かかることがあります。

必要に応じて、Codeboxウィンドウで\* Redirect to CloudFormation \*を選択して、CloudFormationスタックを使用してファイルシステムを作成できます。

どちらの場合も、CloudFormationで作成の進行状況を監視できます。

## 結果

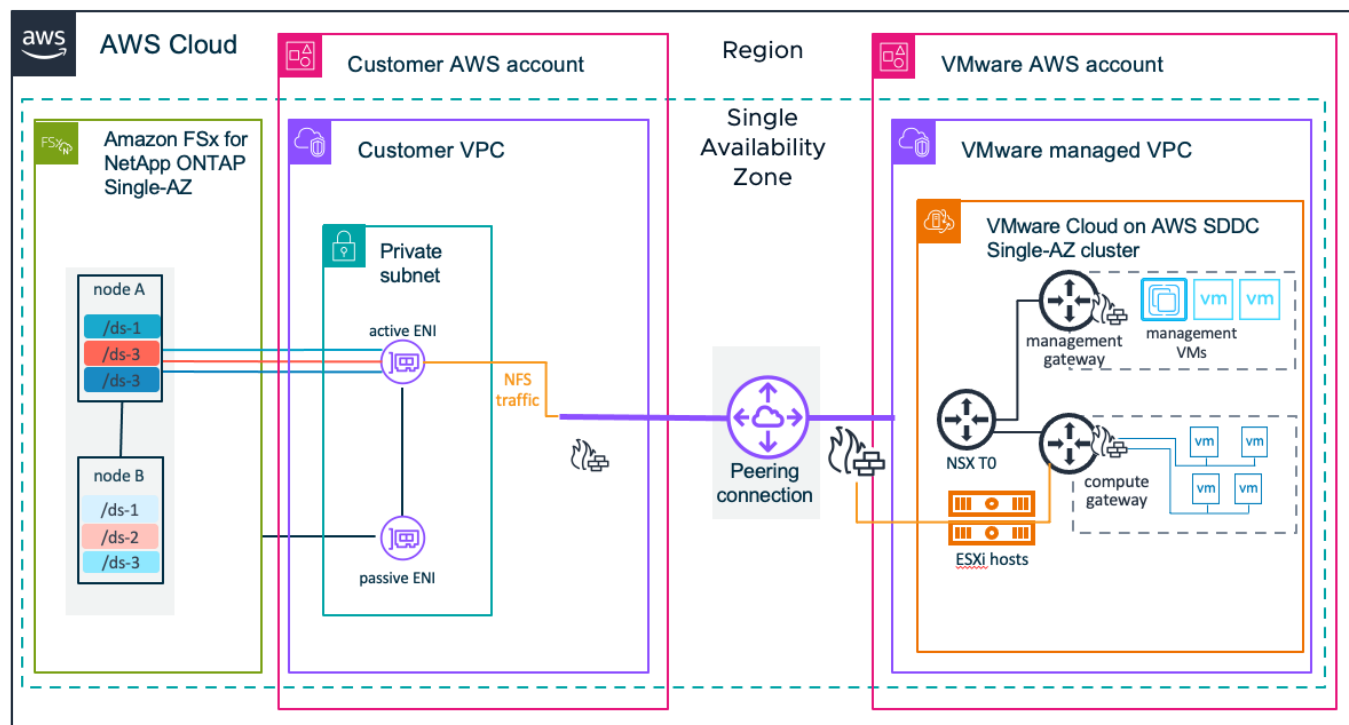
FSx for ONTAPファイルシステムが導入されます。

## FSx for ONTAPファイルシステムをVMware Cloud on AWSに接続

FSx for ONTAPファイルシステムを導入したら、そのシステムをVMware Cloud on AWS インフラに接続する必要があります。Software-Defined Data Center (SDDC) には、VPCピアリング機能を使用して外部NFSストレージボリュームへのネットワーク接続を拡張し、FSx for ONTAPファイルシステムに接続するためのネットワークオプションが用意されています。

"詳細については、[Amazon VPCピアリングドキュメント](#)を参照"

次の図は、VPCピアリングを使用して、単一のアベイラビリティゾーン（AZ）SDDCクラスタをFSx for ONTAPシングルAZ環境に接続する方法を示しています。



**NetApp Workload Factory for VMware** を使用してデータを新しいインフラストラクチャに移行します

VMware Hybrid Cloud Extension (HCX) などのツールを使用して、古い仮想マシンストレージから、新しい仮想マシンに接続されているFSx for NetApp ONTAPボリュームにデータを移動できます。VMware HCXのコア機能を使用すると、オンプレミスのデータセンターからSoftware-Defined Data Center (SDDC) にワークロードを透過的に移行できます。

["VMware HCXのドキュメントを確認する"](#) を参照してください。

次の手順

VMware Cloud on AWSとAmazon FSx for NetApp ONTAPの外部データストアにデータを移行したので、FSx for ONTAPファイルシステム上の重要なデータをバックアップして保護し、データを常に利用できるようにすることができます。

FSx for ONTAPファイルシステムの管理については、で ["Amazon FSX for NetApp ONTAP のドキュメント"](#) 使用できるバックアップ機能と保護機能を確認してください。

# 管理と監視

## EVS構成の構成分析

Workload Factory は、Amazon Elastic VMware Service (EVS) の構成を定期的に分析し、ベストプラクティスとの不整合を特定します。その結果を活用して、パフォーマンス、コスト効率、コンプライアンスを向上させましょう。

主な機能は次のとおりです：

- 日次構成分析
- 自動ベストプラクティス検証
- プロアクティブな可観測性
- 洞察から行動へ

## Well-Architected ステータス

Workload Factory コンソールでは、検出されたすべての EVS 仮想化環境の Well-Architected ステータスが表示されます。Well-Architected ステータスは、「最適化済み」または「最適化されていない」に分類されます。**Inventory** を選択すると、環境内の Well-Architected ステータスタブに移動し、環境のすべての構成を確認できます。

## 構成カテゴリ

Workload Factoryは、AWSおよびNetAppベストプラクティスとの整合性を確保するために、複数のカテゴリにわたってEVS構成を評価します。各カテゴリは、EVS環境の特定の側面に焦点を当てています：

### 可用性

EVS 構成のアクセス性と操作性がどの程度期待されるか。

### セキュリティ

EVS 構成がデータを保護し、アクセスを制御する程度（たとえば、EC2 の停止と終了の保護）。

### 耐障害性

EVS 構成が障害や中断から回復する能力。

### 次の手順

["適切に設計された構成を実装する"](#)

## 適切に設計されたEVS構成を実装する

Workload Factory 構成分析を使用して、Amazon Elastic VMware Service (EVS) 構成の適切なアーキテクチャの状態を確認し、信頼性、セキュリティ、コストに影響する問題を修正します。

## タスク概要

AWS APIを使用して、検出されたすべてのEVS環境を毎日自動スキャンし、EVS設定を分析して、可用性、回復力、セキュリティ、またはコスト最適化に影響を与える可能性のある潜在的な問題を特定します。検出結果は設定領域ごとに整理され、各検出結果にはステータス、重大度レベル、影響を受けるリソースの詳細、および段階的な修復手順が含まれます。

主な機能は次のとおりです：

- 毎日の自動スキャン：検出されたすべての EVS 環境は、分析情報が最新の状態に保たれるように、1 日に 1 回自動的にスキャンされます。
- **AWS API** ベースのスキャン: スキャンでは AWS API が使用され、vSphere 認証情報や vCenter への接続は必要ありません。
- 問題解決に関する詳細なガイダンス：特定された各問題には、明確な説明、重大度レベル、および段階的な解決手順が含まれています。
- 表示専用の分析情報：自動化された問題解決オプションなしで、詳細な調査結果と推奨事項を提供します。

適切に設計されたインサイトを理解する

Well-architected タブには次の内容が表示されます：

- **Configuration name**：評価対象の構成領域。
- タグ：影響領域を示すラベル（可用性、回復力、セキュリティなど）。
- **Status**：「Optimized」（問題は見つかりません）または「Not optimized」（問題が見つかりました）。
- 重大度：検出結果の重要度レベル（例：警告）。
- リソースタイプ：評価対象の AWS リソースのタイプ。
- 影響を受けるリソース数：問題の影響を受けるリソースの数。

## スキャン頻度

検出されたすべてのEVS構成に対して、Well-Architectedスキャンが自動的に実行されます。スキャンスケジュールに関する主な詳細：

- スキャンは、EVS 構成ごとに 1 日に 1 回実行されます。
- 異なる構成のスキャンは、異なる時間に実行される可能性があります。
- 1 つの構成のスキャンが失敗した場合でも、同じアカウント内の他の構成のスキャンは試行されます。
- Well-architected ステータス タブのタイムスタンプ カードには、現在の構成の最後のスキャンがいつ完了したかが表示されます。



Well-Architectedスキャンのオンデマンド実行は現在サポートされていません。すべてのスキャンは毎日のスケジュールで自動的に実行されます。

## 開始する前に


- ["AWS認証情報を追加しました"](#)VMware ワークロードに対する 表示、計画、および分析 権限を持ってい

る必要があります。

- AWS アカウントには、検出された Amazon Elastic VMware Service 環境が少なくとも 1 つ必要です。

## Well-Architected ステータス タブにアクセスする

### 手順

1. 次のいずれかを使用して Workload Factory にログインします。"コンソールエクスペリエンス"。
2. メニューを選択  次に \*VMware\* を選択します。  
プランニングセンターが表示されます。
3. VMware メニューから、**Inventory** を選択します。
4. \*仮想化環境\* リストから、Well-Architected Insights を表示する検出された EVS 環境を選択します。
5. **Well-architected status** タブを選択します。

次の要素が表示されます：

- 自動日次分析タイムスタンプ：この環境で最後にスキャンが実行された日時を表示します。
- 構成：構成領域ごとに結果を整理し、そのステータスと詳細を表示します。

## Well-Architected の評価を表示

### クラスターノード管理

これにより、EVS クラスターノードに適切な EC2 停止および終了保護が設定されているかどうかの評価されます。

状態：

- 最適化: すべての EVS ノードに EC2 停止保護と終了保護の両方が設定されています。
- 最適化されていません：少なくとも 1 つの EVS ノードに EC2 停止保護または終了保護が設定されていません。

これが重要な理由：

EVS ESXi ノードは vCenter、またはその他の VMware レベルの管理ツールを使用してのみ管理する必要があります。適切な EC2 レベルの保護がないと、EC2 コンソールからノードが誤って停止または終了される可能性があります。仮想マシンのデータが利用できなくなったり、データが失われたりする可能性があります。

詳細な調査結果を表示するには：

1. Well-architected ステータス タブで、\*クラスター ノード管理\*を見つけます。
2. \*表示\*を選択して、結果ダイアログを開きます。

ダイアログには次の内容が表示されます：

- 調査結果の概要：ご使用の環境で発見された問題の詳細な説明。

- リソース グリッド：すべての EVS ノードとその保護ステータスを表示するテーブル。これには次のものが含まれます：
  - ノード識別子
  - EC2 停止保護ステータス
  - EC2 終了保護ステータス
- 必要なアクション：問題を解決するための段階的な手順。
- 推奨事項：ベスト プラクティス ガイダンス。

修復：

この問題を解決するには、EVS ノードの停止および終了保護を有効にします：

- ["停止保護を有効にするための AWS ドキュメント"](#)に指定された手順に従ってください。
- ["終了保護を有効にするための AWS ドキュメント"](#)に指定された手順に従ってください。

## EVS環境の回復力

これは、EVS クラスター ノードがパーティション配置グループ全体に適切に分散されているかどうかを評価します。

状態：

- 最適化: すべてのノードは、4つ以上のパーティションで構成された単一のパーティション配置グループのメンバーです。
- 次のいずれかに該当する場合、最適化されていません：
  - ノードは複数の配置グループのメンバーです。
  - 少なくとも 1 つのノードが、パーティション化されていない配置グループのメンバーです。
  - すべてのノードは、4つ未満のパーティションを持つパーティション化された配置グループのメンバーです。

これが重要な理由：

適切なパーティション配置により、EVS クラスターノードは AWS アベイラビリティゾーン内の障害から分離された複数のハードウェアパーティションに分散されます。配置が不適切な場合、パーティションに障害が発生すると、処理能力の大幅な低下やダウンタイムが発生する可能性があります。

詳細な調査結果を表示するには：

1. Well-architected ステータス タブで、**EVS environment resiliency** を見つけます。
2. \*表示\*を選択して、結果ダイアログを開きます。

ダイアログには次の内容が表示されます：

- 調査結果の概要：パーティションの不整合の詳細な説明。
- リソース グリッド：次の EVS 環境ノードを示すテーブル：
  - ノード識別子

- 配置グループ名
- 配置グループの種類
- 配置グループのパーティション数
- 必要なアクション：段階的な修復手順
- 推奨事項：ベストプラクティスガイダンス

修復：

パーティション配置の問題を修正するには：

- EVS 環境に新しいノードを追加する場合は、少なくとも 4 つのパーティションを持つパーティション分割された配置グループを使用して新しいノードをプロビジョニングします。
- クラスター ノードを置き換える場合は、少なくとも 4 つのパーティションを持つパーティション分割された配置グループを使用して置き換えノードがプロビジョニングされていることを確認します。
- 上記の推奨事項に沿って、すべての EVS ノードを単一の配置グループに統合するようにしてください。

ベストプラクティスの推奨事項：

EVS 環境を作成または拡張する場合は、4 つ以上のパーティションで構成された単一のパーティション化された配置グループを使用して、すべてのクラスター ノードをプロビジョニングします。

## 次の手順

適切に設計された洞察を確認し、推奨される変更を実装した後：

- 環境のステータスを常に把握できるように、Well-Architected ステータスタブを毎日監視します。
- 「最適化されていません」という結果が出た場合は、修復手順に従ってください。
- 追加のベストプラクティスについては、AWS と NetApp のドキュメントを確認してください。
- EVS 環境を拡張する前に、推奨事項を実装することを検討してください。

関連リンク

- ["移行アドバイザーを使用して Amazon EVS のデプロイメント計画を作成する"](#)
- ["推奨される FSx for ONTAP ファイルシステムを導入"](#)
- ["AWS プレースメントグループのドキュメント"](#)

# 知識とサポート

## NetApp Workload Factory for VMware のサポートに登録する

NetApp Workload Factory とそのストレージ ソリューションおよびサービスに固有のテクニカル サポートを受けるには、サポート登録が必要です。Workload Factory とは別の Web ベースのコンソールである NetApp コンソールからサポートに登録する必要があります。

サポートに登録しても、クラウド プロバイダー ファイル サービスに対する NetApp サポートは有効になりません。クラウド プロバイダーのファイル サービス、そのインフラストラクチャ、またはサービスを使用するソリューションに関連するテクニカル サポートについては、その製品の Workload Factory ドキュメントの「ヘルプの取得」を参照してください。

["Amazon FSx for ONTAP"](#)

### サポート登録の概要

アカウント ID サポート サブスクリプション ( NetApp コンソールの [サポート リソース] ページにある 20 桁の 960xxxxxxxxx シリアル番号) を登録すると、単一のサポート サブスクリプション ID として機能します。各 NetApp アカウント レベルのサポート サブスクリプションを登録する必要があります。

登録すると、サポート チケットの開設やケースの自動生成などの機能が有効になります。登録は、以下の説明に従って NetApp コンソールに NetApp サポート サイト (NSS) アカウントを追加することで完了します。

### NetApp サポートのアカウントに登録する

サポートに登録し、サポート資格を有効にするには、アカウント内の 1 人のユーザーが NetApp サポート サイト アカウントを NetApp コンソール ログインに関連付ける必要があります。NetApp サポートに登録する方法は、NetApp サポート サイト (NSS) アカウントをすでにお持ちかどうかによって異なります。

#### NSS アカウントをお持ちの既存のお客様

NSS アカウントをお持ちの NetApp のお客様の場合は、NetApp コンソールからサポートに登録するだけです。



#### 手順

1. Workload Factory コンソールの右上で、[ヘルプ] > [サポート] を選択します。

このオプションを選択すると、新しいブラウザ タブで NetApp コンソールが開き、サポート ダッシュボードが読み込まれます。

2. NetApp コンソール メニューから、管理 を選択し、資格情報 を選択します。
3. [ユーザクレデンシャル]\*を選択します。
4. [NSS クレデンシャルの追加]\*を選択し、NetApp Support Site (NSS) 認証プロンプトに従います。
5. 登録プロセスが正常に完了したことを確認するには、[ヘルプ] アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。

[リソース]ページに、アカウントがサポートに登録されていることが表示されます。

 9601111122222444455555 Account Serial Number	 Registered for Support Support Registration
---	--

NetAppコンソール ログインにNetAppサポート サイト アカウントを関連づけていない場合、他のNetAppコンソール ユーザーには同じサポート登録ステータスが表示されません。ただし、これはNetAppアカウントがサポートに登録されていないことを意味するものではありません。アカウント内の 1 人のユーザーがこれらの手順を実行していれば、アカウントは登録済みになります。

## NSSアカウントを持たない既存のお客様

既存のNetApp顧客であり、既存のライセンスとシリアル番号を持っているものの、NSS アカウントを持っていない場合は、NSS アカウントを作成し、それをNetAppコンソール ログインに関連付ける必要があります。

### 手順

1. NetAppサポートサイトのアカウントを作成するには、"[NetApp Support Site ユーザー登録フォーム](#)"
  - a. 適切なユーザレベルを選択してください。通常は\*ネットアップのお客様/エンドユーザ\*がこれに該当します。
  - b. 上記で使ったNetAppアカウントのシリアル番号 (960xxxx) を必ずシリアル番号フィールドにコピーしてください。これにより、アカウント処理が高速化されます。
2. 以下の手順を実行して、新しいNSSアカウントをNetAppコンソールログインに関連付けます。[NSSアカウントをお持ちの既存のお客様](#)。

ネットアップのソリューションを初めて導入する場合は



ネットアップ製品を初めてご利用になり、NSSアカウントをお持ちでない場合は、以下の手順に従ってください。

### 手順

1. Workload Factory コンソールの右上で、[ヘルプ] > [サポート] を選択します。

このオプションを選択すると、新しいブラウザ タブでNetAppコンソールが開き、サポート ダッシュボードが読み込まれます。

2. [Support Resources]ページでアカウントIDのシリアル番号を確認します。

 96015585434285107893 Account serial number	 Not Registered Add your NetApp Support Site (NSS) credentials to BlueXP Follow these <a href="#">instructions</a> to register for support in case you don't have an NSS account yet.
---	--

メニューのスクリーンショット。サポートは最初に表示されるオプションです"]

3. [I am not a registered NetApp Customer]に移動して "[ネットアップサポート登録サイト](#)" 選択します。
4. 必須フィールドに入力します（赤いアスタリスクのフィールド）。
5. [製品ライン（Product Line）]フィールドで、[Cloud Manager \*]を選択し、該当する課金プロバイダーを

選択します。

6. 上記の手順2からアカウントのシリアル番号をコピーし、セキュリティチェックを完了して、ネットアップのグローバルデータプライバシーポリシーを確認します。

この安全なトランザクションを完了するために、メールボックスに電子メールがすぐに送信されます。確認メールが数分で届かない場合は、必ずスパムフォルダを確認してください。

7. Eメールからアクションを確認します。

確認ではネットアップにリクエストが送信され、NetApp Support Site アカウントを作成することを推奨します。

8. NetAppサポートサイトのアカウントを作成するには、"[NetApp Support Site ユーザー登録フォーム](#)"
  - a. 適切なユーザレベルを選択してください。通常は\*ネットアップのお客様/エンドユーザ\*がこれに該当します。
  - b. シリアル番号フィールドには、上記のアカウントのシリアル番号（960xxxx）を必ずコピーしてください。これにより、アカウント処理が高速化されます。

終了後

このプロセスについては、ネットアップからご連絡ください。これは、新規ユーザ向けの1回限りのオンボーディング演習です。

NetAppサポートサイトのアカウントを取得したら、以下の手順を実行して、アカウントをNetAppコンソールのログインに関連付けます。[NSSアカウントをお持ちの既存のお客様](#)。

## NetApp Workload Factory for VMware のサポートを受ける

NetApp は、Workload Factory とそのクラウド サービスをさまざまな方法でサポートします。ナレッジベース (KB) 記事やコミュニティ フォーラムなど、広範な無料のセルフサポート オプションが 24 時間 365 日ご利用いただけます。サポート登録には、Webチケットによるリモートテクニカルサポートも含まれます。

### FSx for ONTAPのサポートを利用する

FSx for ONTAP、そのインフラストラクチャ、またはサービスを使用するソリューションに関連するテクニカル サポートについては、その製品の Workload Factory ドキュメントの「ヘルプの取得」を参照してください。

#### "Amazon FSx for ONTAP"

Workload Factoryおよびそのストレージソリューションおよびサービスに固有のテクニカルサポートを受けるには、以下に説明するサポートオプションを使用してください。

### セルフサポートオプションを使用します

次のオプションは、1 日 24 時間、週 7 日間無料でご利用いただけます。

- ドキュメント

現在表示している Workload Factory のドキュメント。

- ["ナレッジベース"](#)

Workload Factory ナレッジベースを検索して、問題のトラブルシューティングに役立つ記事を見つけます。

- ["コミュニティ"](#)

Workload Factory コミュニティに参加して、進行中のディスカッションをフォローしたり、新しいディスカッションを作成したりしてください。

## ネットアップサポートと一緒にケースを作成します

上記のセルフサポートオプションに加え、サポートを有効にしたあとで問題が発生した場合は、ネットアップサポートの担当者と相談して解決できます。

始める前に

\*ケースの作成\*機能を使用するには、まずサポートに登録する必要があります。NetAppNetAppサイトの資格情報を Workload Factory ログインに関連付けます。"[サポートに登録する方法について説明します](#)"。

手順

1. Workload Factory コンソールの右上で、[ヘルプ]>[サポート]を選択します。

このオプションを選択すると、新しいブラウザ タブでNetAppコンソールが開き、サポート ダッシュボードが読み込まれます。

2. **[Resources]**ページで、[Technical Support]で次のいずれかのオプションを選択します。

- a. 電話で誰かと話をしたい場合は、\*[電話]\*を選択します。netapp.comのページに移動し、電話番号が表示されます。
- b. [ケースの作成]\*を選択して、NetAppサポートスペシャリストとのチケットをオープンします。


- \* Service : Workload Factory \*を選択します。

- ケース優先度：ケースの優先度を選択します。優先度は、[低]、[中]、[高]、[クリティカル]のいずれかになります。

これらの優先度の詳細を確認するには、フィールド名の横にある情報アイコンの上にマウスポインタを合わせます。

- \*事象の説明\*：実行したエラーメッセージやトラブルシューティング手順など、問題の詳細な概要を入力します。
- その他のメールアドレス：この問題 を他のユーザーに知らせる場合は、追加のメールアドレスを入力します。
- 添付ファイル（オプション）：一度に1つずつ、最大5つの添付ファイルをアップロードできます。

添付ファイルはファイルあたり25 MBに制限されています。サポートされているファイル拡張子は、txt、log、pdf、jpg/jpeg、rtf、doc/docx、xls/xlsx、およびcsv。

ntapitdemo 

NetApp Support Site Account


---

Service

Select ▼

Working Enviroment


Select ▼

Case Priority 

Low - General guidance ▼

Issue Description



Provide detailed description of problem, applicable error messages and troubleshooting steps taken.



Additional Email Addresses (Optional) 

Type here

Attachment (Optional)

No files selected

 Upload 

終了後

ポップアップにサポートケース番号が表示されます。ネットアップのサポート担当者がケースを確認し、すぐに対応させていただきます。

サポートケースの履歴を確認するには、\*[設定]>[タイムライン]\*を選択し、「サポートケースの作成」というアクションを検索します。右端のボタンをクリックすると、アクションを展開して詳細を表示できます。

ケースを作成しようとする、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

"選択したサービスに対してケースを作成する権限がありません"

このエラーは、NSS アカウントとそれに関連付けられているレコード会社が、NetAppコンソール アカウントのシリアル番号のレコード会社と同じではないことを意味している可能性があります (つまり、960xxxx) またはシステムのシリアル番号。次のいずれかのオプションを使用してサポートを求めることができます。

- 製品内のチャットを使用します
- テクニカル以外のケースを <https://mysupport.netapp.com/site/help>

## サポートケースの管理（プレビュー）

アクティブなサポート ケースと解決済みのサポート ケースをNetAppコンソールから直接表示および管理できます。NSS アカウントおよび会社に関連付けられたケースを管理できます。

ケース管理はプレビューとして使用できます。今後のリリースでは、この点をさらに改良し、機能を強化する予定です。製品内のチャットでご意見をお寄せください。

次の点に注意してください。

- ページ上部のケース管理ダッシュボードには、次の2つのビューがあります。
  - 左側のビューには、指定したユーザNSSアカウントによって過去3カ月間にオープンされたケースの総数が表示されます。
  - 右側のビューには、ユーザのNSSアカウントに基づいて、過去3カ月間にオープンしたケースの総数が会社レベルで表示されます。

テーブルの結果には、選択したビューに関連するケースが反映されます。

- 目的の列を追加または削除したり、[優先度]や[ステータス]などの列の内容をフィルタリングしたりできます。他の列には、並べ替え機能だけがあります。

詳細については、以下の手順を参照してください。

- ケースごとに、ケースノートを更新したり、ステータスが「Closed」または「Pending Closed」でないケースをクローズしたりすることができます。

### 手順

1. Workload Factory コンソールの右上で、[ヘルプ] > [サポート] を選択します。

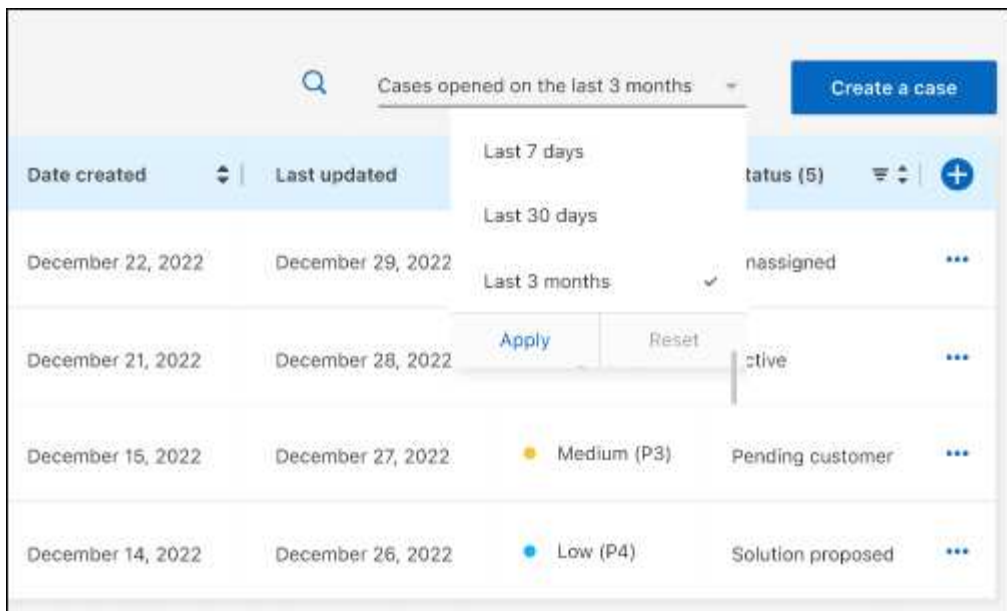
このオプションを選択すると、NetAppコンソールの新しいブラウザ タブが開き、サポート ダッシュボードが読み込まれます。

2. \*ケース管理\*を選択し、プロンプトが表示されたら、NSS アカウントをNetAppコンソールに追加します。

ケース管理 ページには、NetAppコンソール ユーザー アカウントに関連付けられている NSS アカウントに関連するオープン ケースが表示されます。これは、**NSS 管理** ページの上部に表示される NSS アカウントと同じです。

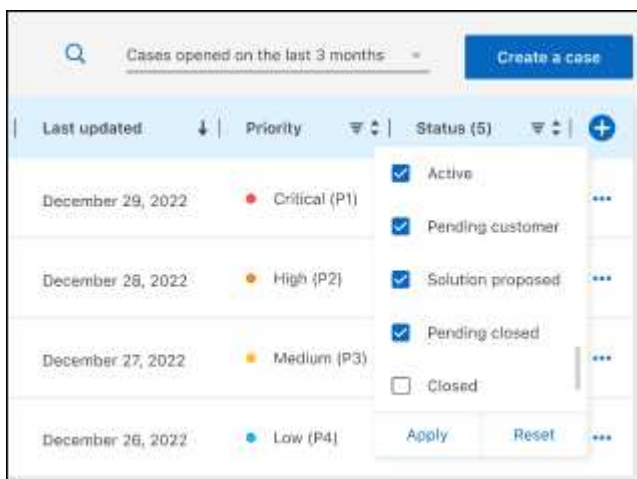
3. 必要に応じて、テーブルに表示される情報を変更します。

- [Organization's Cases]\*で[View]\*を選択すると、会社に関連付けられているすべてのケースが表示されます。
- 正確な日付範囲を選択するか、別の期間を選択して、日付範囲を変更します。




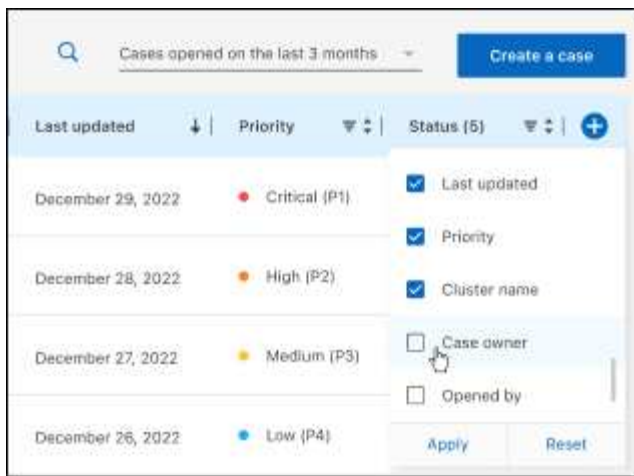
ページのテーブルの上にあるオプションのスクリーンショット。正確な日付範囲、または過去7日、30日、または3カ月を選択できます。"]

- 。列の内容をフィルタリングします。



列のフィルタオプションのスクリーンショット。[Active]や[Closed]など、特定のステータスに一致するケースを除外できます。"]

- 。テーブルに表示される列を変更するには、を選択し 、表示する列を選択します。

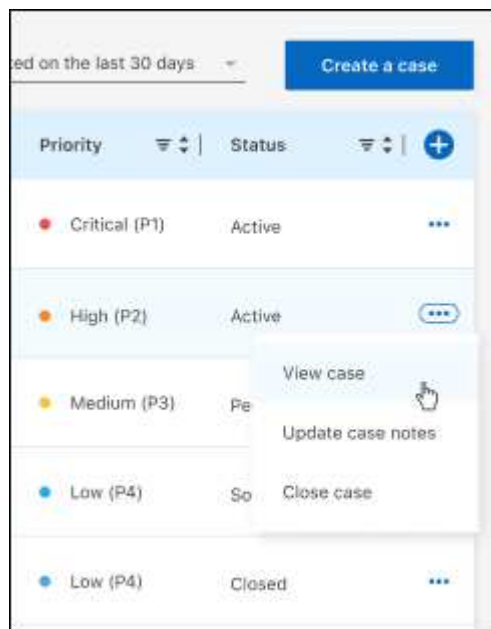


4. 使用可能なオプションのいずれかを選択して、既存のケースを管理し・・・ます。

- ケースの表示: 特定のケースの詳細を表示します。
- ケースノートの更新: 問題の詳細を入力するか、\*ファイルのアップロード\*を選択して最大5つのファイルを添付します。

添付ファイルはファイルあたり25 MBに制限されています。サポートされているファイル拡張子は、txt、log、pdf、jpg/jpeg、rtf、doc/docx、xls/xlsx、およびcsv。

- ケースをクローズ: ケースをクローズする理由の詳細を入力し、\*ケースをクローズ\*を選択します。



# NetApp Workload Factory for VMware に関する法的通知

法的通知では、著作権に関する声明、商標、特許などにアクセスできます。

## 著作権

["https://www.netapp.com/company/legal/copyright/"](https://www.netapp.com/company/legal/copyright/)

## 商標

NetApp、NetAppのロゴ、およびNetAppの商標ページに記載されているマークは、NetApp、Inc.の商標です。その他の会社名および製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。

["https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/"](https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/)

## 特許

NetAppが所有する特許の最新リストは、次のサイトで参照できます。

<https://www.netapp.com/pdf.html?item=/media/11887-patentspage.pdf>

## プライバシーポリシー

["https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/"](https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/)

## オープンソース

通知ファイルには、ネットアップソフトウェアで使用されるサードパーティの著作権およびライセンスに関する情報が記載されています。

["NetAppワークロード ファクトリー"](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。